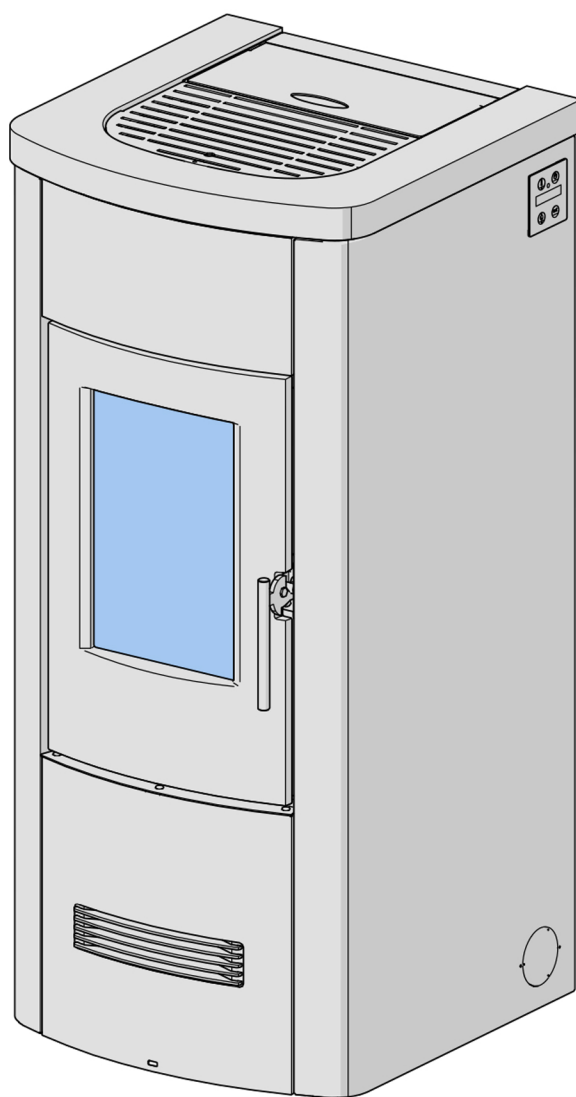




PELLET STOVE / P120

取扱説明書



はじめに

この度は、PIAZZETTA/P120をご購入頂きありがとうございます。
 ペレットストーブは電源を使用する精密機器です。取扱に関してこの説明書をよく読み、適切にご使用頂くことでより長くペレットストーブライフを楽しむことができます。
 この説明書には、注意事項・操作・メンテナンスなど、今後ご使用頂くために必要なことが記載されていますので、紛失しないよう大切に保管してください。

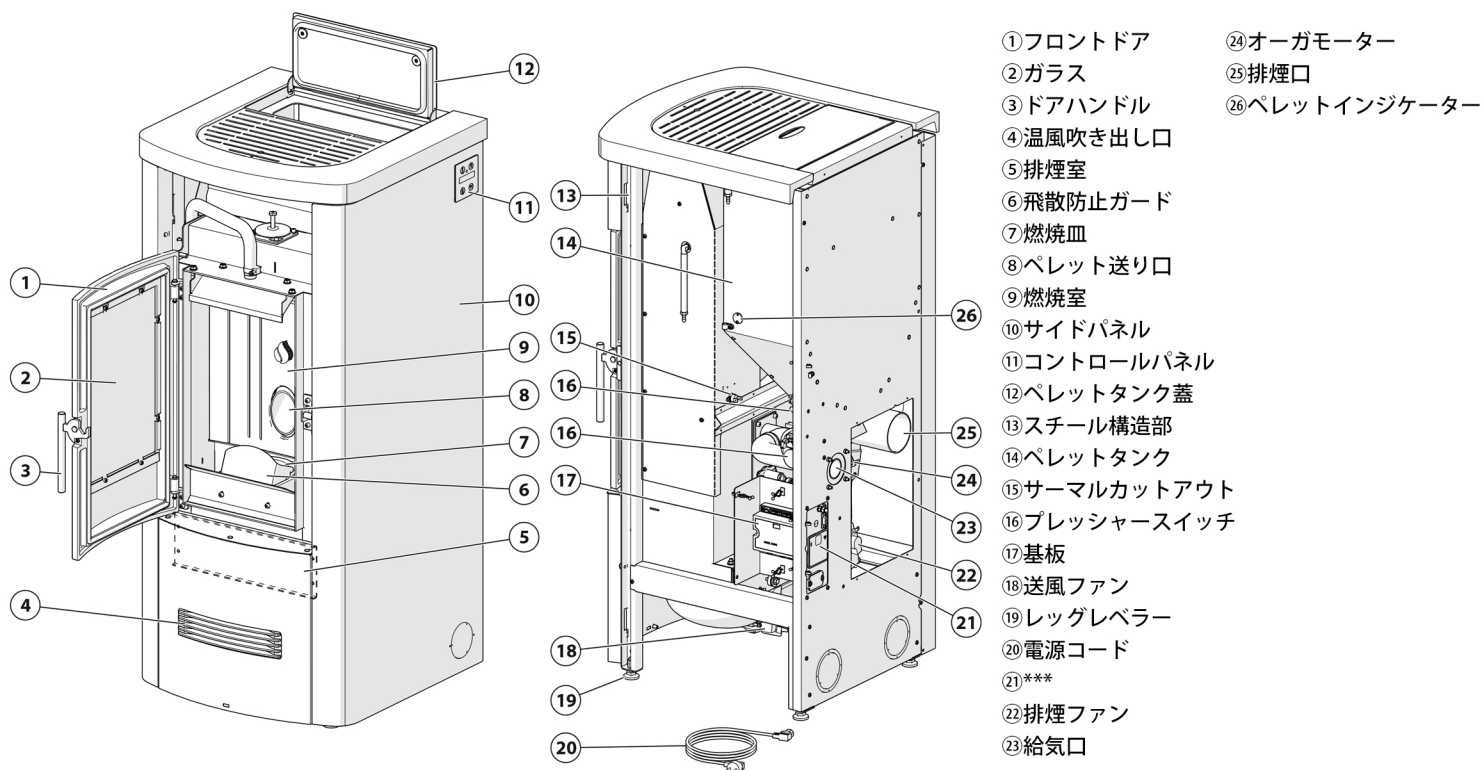
目次

1	<目次>	13	燃焼皿の自動クリーニング	30	【CLEANING GRATE】
	はじめに		運転を終了する		燃焼皿の自動クリーニング
	目次		シャットダウンフェーズ中の再起動		【EMPTY GRATE AND PLESS ON-OFF】
2	<概要>		スタートフェーズ中のシャットダウンや電力遮断		燃焼皿を掃除する
	注意事項	14	停電による電力遮断		【SERVICE TIME】 メンテナンス時期のお知らせ
	各部名称		機器がエラー停止した際の復旧方法		【EXT THERM OK】 ※オプション
3	安全装置と機能	15	<メニューの操作>	31	【OFF T】 ※オプション
	監視機能について		メニュー画面一覧		【ENERGY OK】
4	製品の識別データ	16	【CHRONO】 タイマーの設定		エナジーセービングが上限温度に達した
	概要	17	【LANGUAGE】 言語の設定		【OFF E】 エナジーセービングにより停止中
	仕様		【CLOCK】 時刻の設定		【ENS】 エナジーセービングが作動中
5	寸法図	18	【ENERGY SAVING】 エナジーセービングの設定		【OFF N】 ナチュラルモード設定のまま停止中
	離隔距離	19	【NATURAL MODE】 ナチュラルモードの設定	32	【P1 N】 ナチュラルモードが作動中
6	<燃料>		【STOVE STATUS】 現在の状態		【WAIT FOR RESET】 機器を冷やす
	木質ペレットとは	20	【FILL AUGER】 オーガにペレットを絡ませる		【RESTART POWER FAILURE】 電力が遮断された
	国産と海外製の違い		【ALARM CONTACT】 ※オプション		【NOT ALLOWED】 設定拒否
	ペレットの種類と品質		【EXTERNAL THERMOSTAT】 ※オプション	33	【LOCKED KEYBOARD】
7	<設置>	21	【MEMORY COUNTERS】 履歴の確認		コントロールパネルがキーロックされている
	マルチフォーコシステム		【DISPLAY】 ディスプレイの設定		【CLOSE】 ペレットタンクの蓋が開いている
	加湿機能	22	【PELLET QUALITY】 ペレットの品質設定		<メンテナンス>
	電気系統の接続		【COMBUSTION QUALITY】 排煙スピードの設定	34	メンテナンスの重要性
8	<注意事項>	23	【WIFI】 ※オプション		メンテナンスの頻度
	運転する際の注意		【TECH MENU】 代理店専用ページ	35	ドアの開閉方法
	ペレットを補給する際の注意	24	<トラブルシューティング>		燃焼皿の掃除
	慣らし運転（初めての着火）する際の注意		【E1】 排煙室の低圧	36	バックパネルの掃除
9	<コントロールパネルの操作>		【E2】 プレッシャースイッチの異常		排煙室の掃除
	コントロールパネルの各部名称	25	【E3】 ペレットタンク内の異常高温		送風ファンの掃除
	コントロールパネルのキーロック		【E4】 排煙温度の異常高温		煙突の掃除
10	<リモコンの操作>	26	【E6】 オーガの異常	37	灰受け皿の掃除
	リモコンの各部名称（オプション）		【E7】 排煙温度の異常低温		外装パネルの掃除
	リモコンの表示・マーク	27	【E8】 排煙センサーの接続異常		エナメル金属パーツの掃除
11	<安全管理と制御>		【E9】 着火不良		ドアガラスの掃除
	エラーコードとメッセージ一覧	28	【E10】 室温センサーの接続不良	38	ヒューズの交換
	事故防止のための自動制御		【E12】 排煙ファンの接続不良		加湿皿の掃除
12	<ストーブの運転>	29	【E14】 着火不良		リモコンの電池交換
	運転スタート		【E19】 排煙センサーの接続異常		シーズン終了時の掃除
	室温を変更する		リモコンやコントロールパネルが一切反応しないときは		シーズン前の準備
	火力を変更する				
	風力を変更する				

注意事項

- ◆機器は講習を受けた正規の販売店が設置しなくてはなりません。
- ◆機器の改造は故障の原因になるので、行なわないでください。保証の対象外となります。
- ◆本説明書に沿った正しい設置・操作が実行されていない場合、機器あるいは家屋に損傷を与える危険があります。これらの行為は保証の対象外となることがありますのでご注意ください。
- ◆機器や煙突設置にあたって地域の規制がある場合はそちらを優先させてください。
- ◆機器と煙突の接続部は、シールするなど煙が漏れないよう取り付けてください。
- ◆地域や住宅設計により機器のパラメーターの設定条件が変わります。機器の使用前に正しく設定してください。
- ◆正常な運転を維持するため、本説明書にあるメンテナンス事項の作業やメンテナンスサイクルを守ってください。メンテナンス不良や不備による機器への損傷は保証の対象外となります。
- ◆煙突の掃除不足による詰まりは排気不良を引き起こすため危険です。煙突内はきれいな状態を保つよう、定期的に確認し掃除し、必要であれば掃除してください。
- ◆エラーが起きた際は、本説明書にある手順に従ってエラー原因を解消し、再起動してください。
- ◆万が一煙道内火災が起きた際は、ドアは開けず機器を停止し「推奨される行動」をとってください。
- ◆運転中は、本体金属部やガラスが熱くなるので注意してください。
- ◆運転を開始・停止する過程で、機器よりキリキリ音が出ることがあります。これは熱による金属の膨張・収縮時に発生するため故障ではありません。
- ◆機器と可燃物や壁との離隔距離は適切に守ってご使用ください。必要な離隔が保てない場合は遮熱板を設置するなど考慮してください。
- ◆着火の際、ガソリン・ランタンオイル・石油・灯油・エチルアルコールなどの揮発性液体燃料や炭・チャコールなどの固形燃料は使用しないでください。
- ◆燃料は本説明書に記載された条件を満たす木質ペレットのみ使用してください。
- ◆運転中はドアを開けないでください。
- ◆本説明書は紛失しないよう大切に保管してください。

各部名称



安全装置と機能

当機器は、異常が発生した際に運転を停止し機器を守るため、以下の安全装置や機能が備わっています。何らかの不具合や異常が発生したときは、エラー内容に応じて対応してください。

安全機能は、不具合や異常が発生した際に機器へのダメージや人・動物・モノへのダメージを防ぐための機能です。改造したり、変更を加えたりしないでください。異常が起きた際は販売店へご相談ください。

◆プレッシャー（負圧）スイッチ

排煙の圧力を監視し、運転中にフロントドアを開いたり排煙経路に障害（汚れの堆積など）が生じるなどで正しい圧力が検知できないときに作動します。作動すると、ペレットの供給を中止し、ストーブは「シャットダウン」モードに入ります。

◆タンク温度センサー

ペレットタンク内の温度を計測し、異常高温を検知すると作動します。作動すると、ペレットの供給を中止し、ストーブは「シャットダウン」モードに入ります。

◆排煙温度センサー

基板に繋がっており、常に排煙温度を計測しています。

- ・センサーが異常高温を検知すると、ペレットの供給を中止し、ストーブは「シャットダウン」モードに入ります。
- ・センサーが異常低温を検知すると、ディスプレイに「警告」サインが点滅します。
- ・スタートフェーズ中に規定時間内で排煙温度が上がらない場合、ディスプレイに「警告」サインが点滅します。

◆オーガ（スクリュウ）の安全機能

オーガの運転は常に基板によって制御されています。オーガによる燃料送り込みに不具合が生じると、ディスプレイに「警告」サインが点滅します。ペレットの供給を中止し、ストーブは「シャットダウン」モードに入ります。

◆排煙ファンの安全機能

排煙ファンの回転数で異常を検知すると、ディスプレイに「警告」サインが点滅します。ペレットの供給を中止し、ストーブは「シャットダウン」モードに入ります。

◆基板の制御機能

基板は電気の伝達や着火不良など異常の際にシグナルを発し、ストーブの運転を制御します。

◆電気の安全機能

過電流が起きた際に、本体のオーバーヒートを防ぎます。

監視機能について

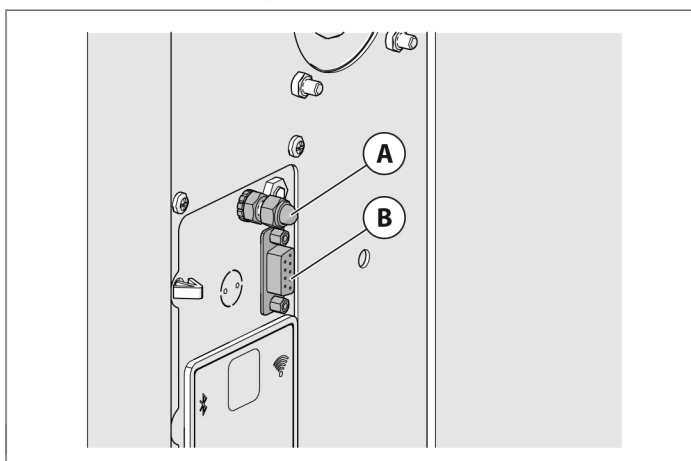
当機器は、正面むかって右下後方の位置に専門の技術者が監視・チェックに使用するための機能を備えています。

A) プレッシャープラグ

差圧計を用いて排煙の負圧値を計測します。

B) DB9シリアルポート

GPRSキットを接続し、機器の運転状況や必要なメンテナンスを確認できます。

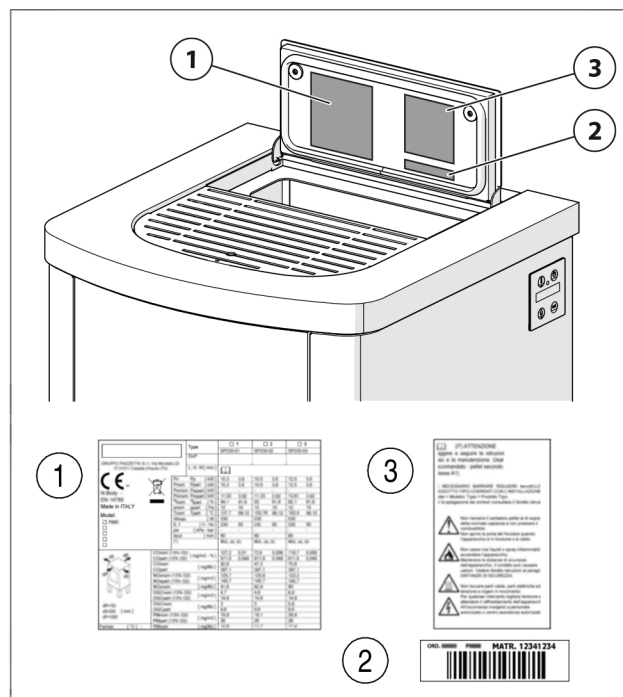


製品の識別データ

機器には、商品データや詳細が記載されたシールプレートや個体識別を行なうためのシリアルNoを示すバーコードシールが貼付されています。

これらのシールはメンテナンスや修理の際に個体識別の照合に必要となりますので剥がさないでください。

- ① 機種仕様
機器の機種名や各仕様を記載しています。
- ② シリアルNo
機器の型式・年式が判別できる個体識別番号を記載しています。
「MATR.」から始まる数字がシリアルNoです。
- ③ 重要事項ラベル
機器の取扱いに関する注意事項を記載しています。



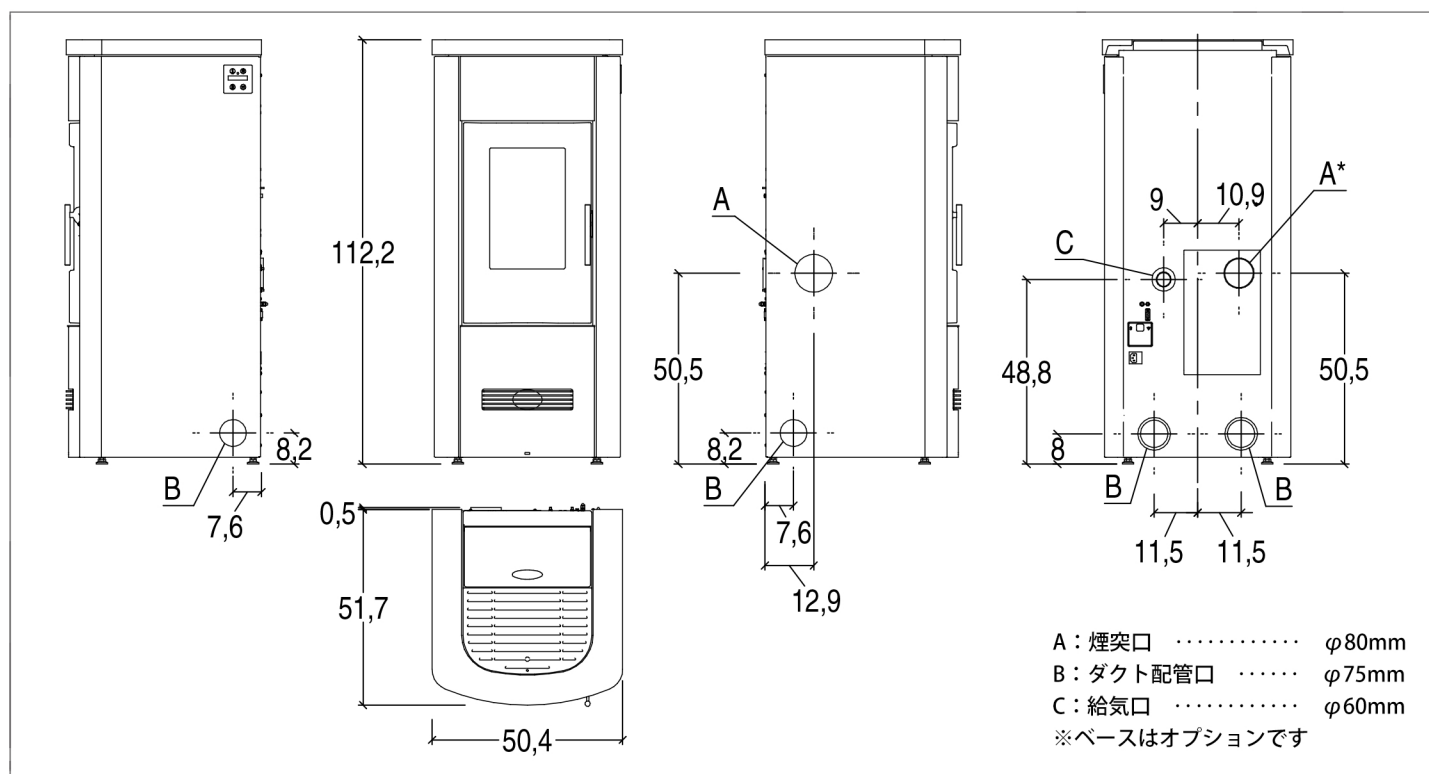
概要

外装（側面）	スチール（鋼板）
外装（側面）	ハンドメイドのマジョルカ焼きタイル（セラミック）
本体	スチール（鋼板）
炉内	鋳鉄・スチール（鋼板）
燃焼皿	鋳鉄
フロントドア	鋳鉄・750℃耐熱ガラス
ハンドル	スチール（鋼板）
出力設定	5段階
送風ファン	1個搭載
灰受け皿	スチール（鋼板）／引き出し式（取り外し可能）
燃料	木質ペレット（EN規格推奨）
温風	本体下部より足元からの送風／オプション：マルチフォーコシステム（総全長8m配管可能）

仕様

出力	最大 8.5／最小 3.4 (kW)	最大電力（着火時）	330 (W)
1時間あたりの燃焼消費量	最大 1.94／最小 0.77 (kg/h)	通常運転時の電力	最大 69／最小 44 (W)
燃焼効率	最大 90.6／最小 89.4 (%)	電圧／周波数	230 (V)／50・60 (Hz)
CO値 (O ₂ 13%)	最大 0.002／最小 0.04 (%)	タンク容量	18 (kg)
煤塵 (O ₂ 13%)	最大 19／最小 329 (mg/MJ)	煙突径	φ80 (mm)
煤塵 (O ₂ 0%)	最大 13／最小 22 (mg/Nm ³)	重量（外装パネル含む）	105 (kg)
OGC (O ₂ 0%)	最大 1／最小 2 (mg/Nm ³)	排煙量	最大 5.5／最小 4.6 (g/s)
NOx (O ₂ 0%)	最大 129／最小 118 (mg/Nm ³)	排煙温度	最大 210／最小 127 (°C)
		最低ドラフト値	最大 5／最小 3 (Pa)

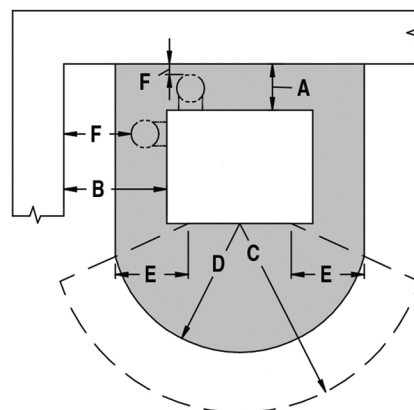
寸法図



離隔距離

ストーブの重量を確認の上、必要に応じて床に補強を行い設置してください。

- A: ストーブ背面と壁の距離 可燃壁の場合 10cm
- 不燃壁の場合 5cm
- B: ストーブ側面と横壁との距離 可燃壁の場合 30cm
- 不燃壁の場合 20cm
- C: ストーブ前方の可燃物との距離 100cm
- D: ストーブ前方のフロアプレートの長さ 30cm
- E: 炉からフロアプレート横の長さ 30cm
- F: 煙突表面と可燃壁の距離 15cm
- H: ストーブ天板と天井の距離 75cm



木質ペレットとは

本機器は木質ペレットのみ燃やすことを想定して設計されています。木質ペレットとは天然木や廃材・おが屑を圧縮して造られる燃料です。原材料を圧縮する段階で生成されるリグニンという天然由来の粘着物質を利用することで糊や接着剤をほとんど使用することなくペレットを成形することができます。

市場には樹種や加工方法の違いによって様々なペレットの種類が販売されていますが、ペレットの品質は機器の運転に大きな影響を与えるため、なるべく高品質なペレットを使用するようにしましょう。

ペレットストーブの不具合の原因は、7割以上が燃料である木質ペレットに起因すると言われています。ペレットを変更するだけで不具合が解決することも多いため、高頻度で不具合が起きる場合はまず燃料を変更して様子を見ることが大切です。

国産と海外製の燃料の違い

◆海外製のペレットを使用する際の注意事項

- ・ヨーロッパの「EN規格」や国際規格の「ISO規格」を認証したペレットを使用してください。
- ・もみ殻やサトウキビ等の木質以外の原料を使用したバイオマスペレットは使用しないでください。

◆国産ペレットを使用する際の注意事項

- ・日本では木質ペレットの製造に関する規格がありません。樹種や製法が統一されていないことから、製造元ごとに品質に大きな差が出る場合がありますので注意が必要です。
- ・なるべくEN規格に沿って製造しているペレットを使用しましょう。特に含水率と圧縮密度は機器の使用に大きな影響を与えるため、より注意が必要です。
- ・新しいペレットを試すときは、最初は少量だけ購入し様子を見てみましょう。エラーや不具合の発生頻度等をよく確認し、問題ないか確認して切り替えることをオススメ致します。

ペレットの種類と品質

◆PIAZZETTA社推奨ペレット（EN規格・ISO規格を認証している木質ペレットは問題無く使用可能です）

原木	天然木	長さ	10～30mm	直径	6mm
圧縮密度	600kg/m ³	重量	1.0kg/dm ³ 以下	熱量	4.9kW/kg
含水率	6%以下	灰分量	0.7%以下		

◆ペレットの種類

- ・ホワイトペレット …… 原料の使用部位：芯材のみ / 灰やクリンカーの発生量：少ない / メンテナンスの頻度：少ない
- ・全木ペレット …… 原料の使用部位：樹皮＋芯材 / 灰やクリンカーの発生量：普通 / メンテナンスの頻度：普通
- ・バークペレット …… 原料の使用部位：樹皮のみ / 灰やクリンカーの発生量：多い / メンテナンスの頻度：多い

※原則としてバークペレットはペレットストーブには使用できません。

◆含水率の高いペレットを使用すると・・・

- ・湿気ているため着火しにくく、運転スタート直後に着火エラーを頻発する事態を招きます。
- ・含水率が高いものは燃焼効率が大幅に低下します。乾燥したものと比べると同じ量の燃料を燃やしても暖房効率が下がるため、よりたくさんの燃料を消費しないと部屋が暖まりません
- ・炉内で不完全燃焼を起こし煤や黒煙が発生しやすくなります。排煙ファンや煙突内が詰まりやすくなるため頻繁にメンテナンスが必要となります。

◆圧縮密度が低いペレットを使用すると・・・

- ・圧縮密度が低いとペレットが砕けやすくなります。砕けて粉状になったペレットは燃料としては使用できず、廃棄しなければならないため無駄が多くなります。
- ・ペレットタンク内でもペレットが崩壊し、オーガ（ペレットタンク内で燃料を巻き上げるスクリュウ）が詰まりやすくなるため頻繁にメンテナンスが必要となります。
- ・ペレットタンク内に溜まった粉をオーガが巻き込んで炉内に排出してしまうと、粉が導火線となり炉内の炎がオーガ内をさかのぼってタンクに引火する「逆火」の原因になることがあり非常に危険です。

マルチフォーコシステム

◆足元からの送風

マルチフォーコシステムとは、PIAZZETTA社が特許をもつ足元からの送風機構です。冷えやすい室内の床付近から送風することで、室内の空気の循環を促し暖房効率を上げて過剰暖房を防ぎます。

◆ダクト配管施工（オプション）

送風を分岐し床下や壁内にダクトを配管することで、離れた部屋へ送風することができます。ダクト内は高温となるため、施工の際は耐熱の専用部材を使用する必要があります。

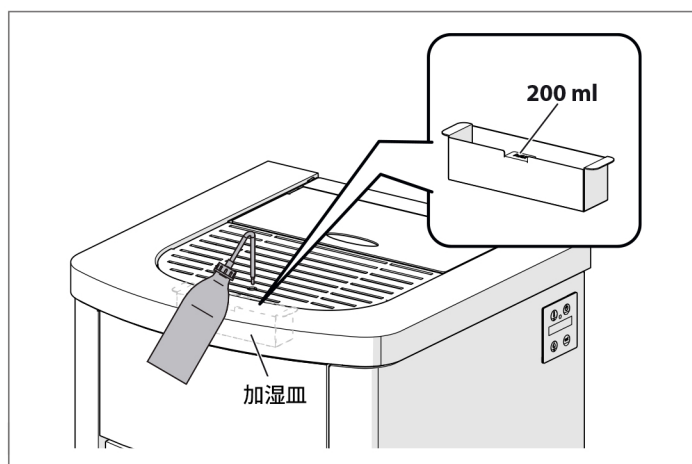


加湿機能

天板には加湿皿が付属しており、付属のスプイトで水を入れることができます。

※最大200mlまで入ります。

※周囲にこぼさないよう十分気を付けてください。



電気系統の接続

当機器は、背面右寄りの下部に各ケーブルの接続口があります。

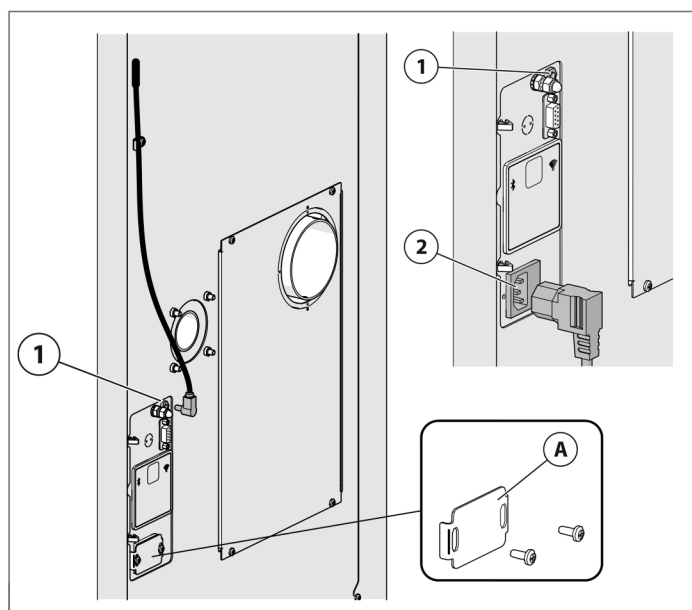
①室温センサー取り付けジャック

ストーブ周辺の室温を検知します。センサーが接続されていなかったり正しく接続されていない場合、ディスプレイに警告が表示されます。

②電源ケーブル差し込み口

機器を運転するのに必要な電力を供給します。

※最初のみ(A)のカバーが付いていますので取り外してください。



運転する際の注意

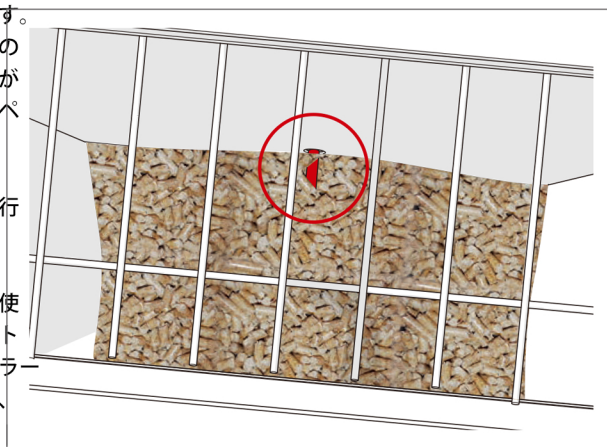
- ◆機器をクッキングに利用しないでください。
- ◆機器を使用する際は、定期的に十分な換気を行なってください。
- ◆定期的に煙突の状態を確認し、必要に応じてメンテナンスを行なってください。
- ◆木質ペレット以外の燃料は使用しないでください。
- ◆機器を再スタートする際は、必ず炉内に残ったペレットを掃除してから行なってください。
- ◆運転中は機器本体（特にドア・ハンドル・温風吹き出し口など）が熱くなりますので、火傷などに十分ご注意ください。
- ◆機器の近くには、可燃性のものを置いたり近づけたりしないでください。
- ◆ドアは常に閉められた状態で運転しなければなりません。運転中にドアを開かないでください。
- ◆ガラスは傷や割れのない状態で使用してください。
- ◆ペレットタンクの保護用格子アミは絶対に外さないでください。
- ◆運転中にペレットを補給する場合は、ペレットの袋が機器に触れないよう十分ご注意ください。

ペレットを補給する際の注意

タンク内にある赤いインジケーターでペレットの残量を計測しています。インジケーターよりペレットが少なくなると、オーガからのペレットの送り込みが不安定になったり、運転開始時に着火不良を起こす可能性があります。使用状況に応じて随時ペレット残量を確認し、タンク内のペレットが残量切れにならないようにペレットを補給してください。

※ペレットの補給は機器を停止して行なってください。運転中は絶対行わないでください。

※タンク内のペレットが全て無くなりオーガに絡んだペレットも全て使い切ると、燃料を補充して再スタートしても、オーガに近いペレットを絡ませる間に着火フェーズがタイムアウトし、着火不良としてエラーを起こすことがあります。その際は再スタートの項目を確認のうえ、再度着火を行なってください。



※袋の底部に溜まるペレット屑は詰まりの原因となりますので、タンク内には入れないように十分注意してください。

※ペレット補給時は、タンクから溢れ出ないように注意してください。

慣らし運転（初めての着火）する際の注意

機器に初めて着火する際は、慣らし運転が必要です。

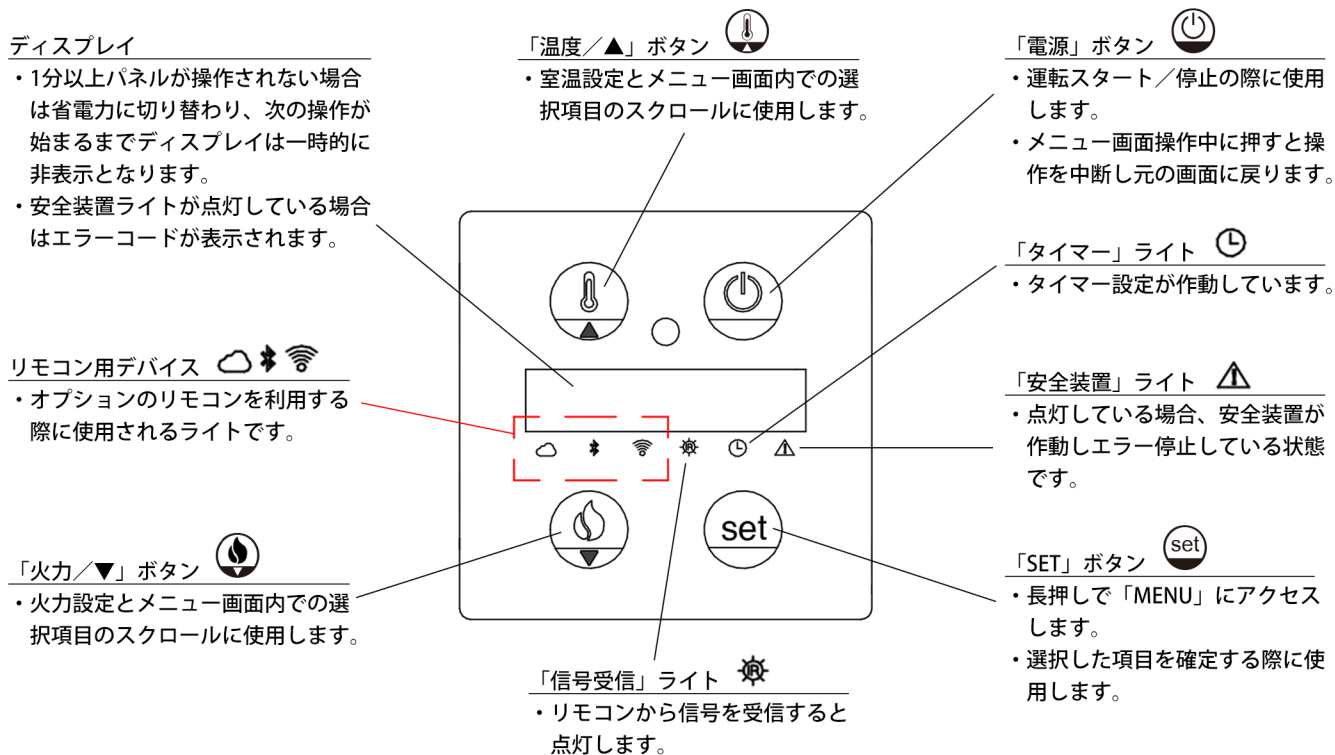
- ◆着火の前に、各部品が所定の位置に収まっているか確認してください。
- ◆初めて運転する際や運転中にペレットタンクが空になってしまった場合、オーガに燃料が絡んでいない状態となります。オーガに燃料を絡めるには「FILL AUGER」の項目を参照してください。
- ◆製造時に工場で塗布された内部のオイルやペイントが焼けて蒸発する際に臭いが発生することがあります。無毒ですが、部屋の換気を十分行なってください。数回焚くと臭いはおさまります。

① 出力を低～中に抑えた状態で5～6時間運転します。
※機器の構造体である鉄を熱収縮に慣らすのが目的です。

② 出力を最大にした状態で6～10時間連続運転します。運転時間を3～4時間×2回で分割運転しても構いません。
※塗料を定着させるのが目的です。

コントロールパネルの各部名称

コントロールパネルは本体右側面パネルに設置されており、全ての機能を操作できるようになっています。



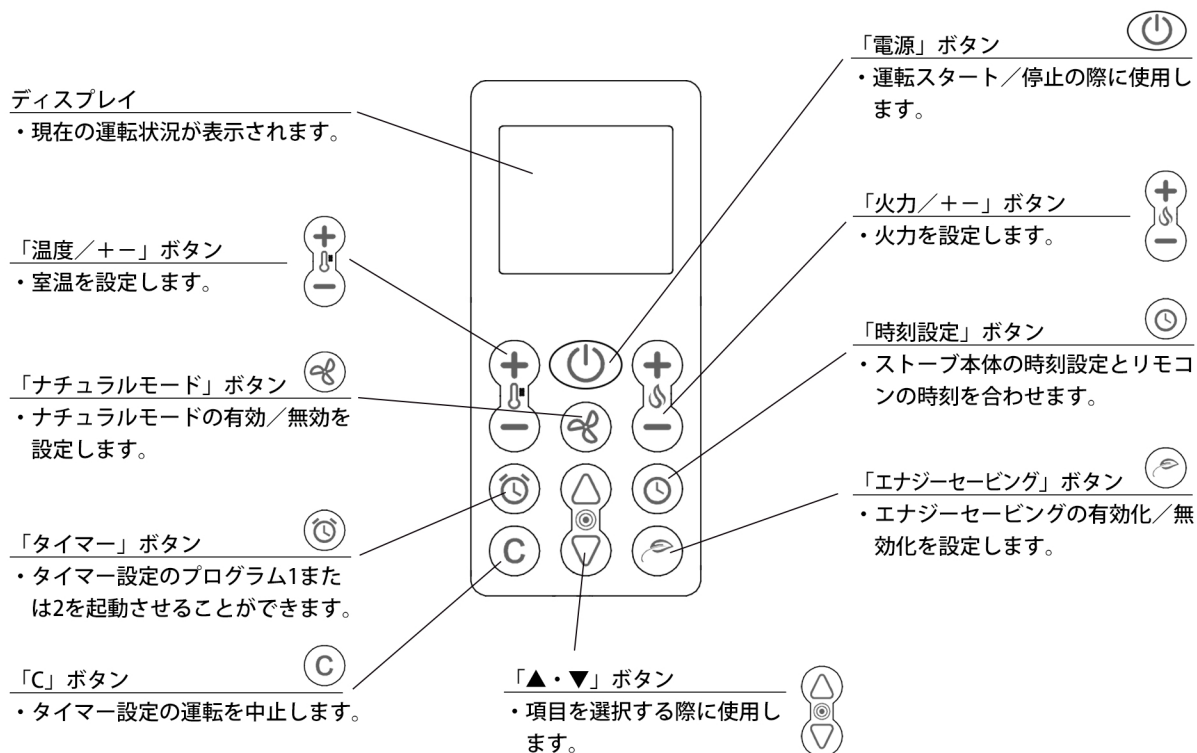
コントロールパネルのキーロック

誤操作防止のため、キーロックを設定することができます。

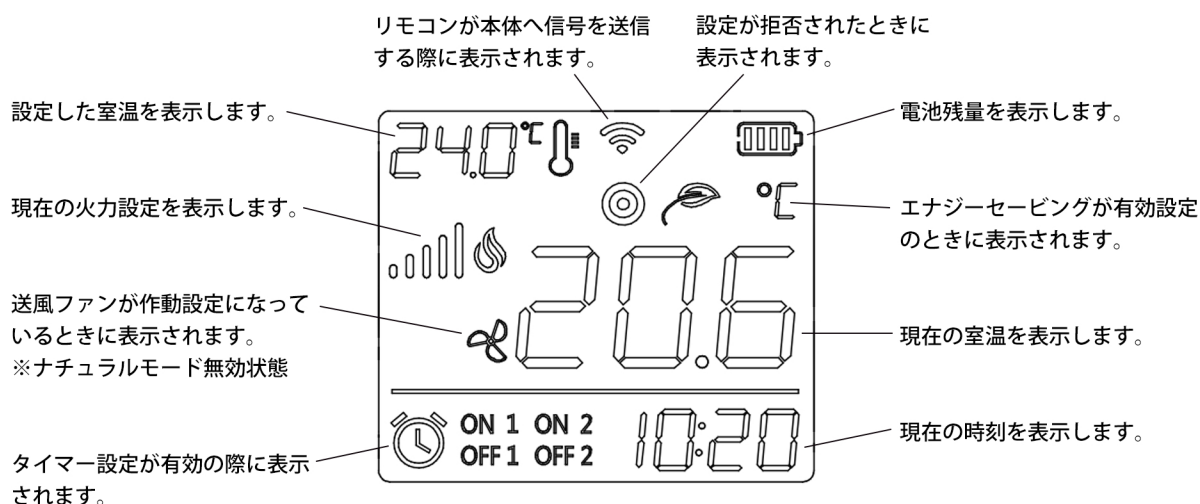
- ①  を10秒ほど長押しするとキーロック（チャイルドロック）が設定され、コントロールパネルが操作できなくなります。
※キーロック設定中にボタンを押すと、ディスプレイに「LOCK KEYBOARD」と表示され、一切のボタン操作ができません。
- ② 解除する場合は、再度  を10秒ほど長押しします。

リモコンの各部名称 (オプション)

より快適にご利用頂くための補助として、オプションでリモコンを使用することができます。リモコンで操作できるのは一部の機能のみです。全ての機能を使用する場合はコントロールパネルを操作してください。



リモコンの表示・マーク



エラーコードとメッセージ一覧

機器には事故防止のために様々なセンサーを張り巡らせており、安全装置が内蔵されています。リモコンには機器の状態やエラー内容など様々な情報が表示されるようになっています。各対処法はトラブルシューティングの項目を参照してください。

◆エラーコード

E1		排煙室の低圧
E2		プレッシャースイッチの異常
E3		ペレットタンク内の異常高温
E4		排煙温度の異常高温
E7		排煙温度の異常低温
E8		排煙温度センサーの接続不良
E9		着火不良
E10		室温センサーの接続不良
E12		排煙ファンの故障
E14		スタートフェーズの規定時間内に排煙温度が上がらない
E19		N.PEL / PELLET接続口の接触不良

◆メッセージ

CLEANING GRATE		燃焼皿の自動クリーニング中
EMPTY GRATE		燃焼皿を掃除する
SERVICE TIME		ストーブをメンテナンスする
EXT THERM OK		外部センサーにより機器が停止中（日本では使用できません）
OFF T		外部センサーが作動中（日本では使用できません）
P1 N（または P2 N）		ナチュラルモードが作動中
OFF N		ナチュラルモードが有効の状態では機器が手動または他の機能によりシャットダウンした状態
ENS		エナジーセービングが作動中
ENERGY OK		エナジーセービングにより設定温度に達した状態
OFF E		エナジーセービングが停止中
WAIT FOR OFF		シャットダウンフェーズによりストーブを冷やしている
RESTART POWER FAILURE		電力が遮断された
NOT ALLOWED		設定拒否
LOCKED KEYBOARD		コントロールパネルのキーロックが作動中
CLOSE		ペレットタンクの蓋が開いている

事故防止のための自動制御

PIAZZETTA社の機器は排煙温度を起点にプログラムが組まれ、機器に熱がこもり過ぎることの無いよう常にストーブを管理・制御しています。事故を防止するため、機器を3段階に分けて自動制御を行ないます。

◆第一段階 送風ファンの自動制御

送風ファンの自動制御が作動する排煙温度の限界値をプログラムで管理しています。最大出力（火力）の状態では排煙温度がプログラム上の規定値を越えた場合、ディスプレイに「MAX VENT」が表示され、送風ファンは強制的に最大速度で作動します。

◆第二段階 出力の自動制御

出力の自動制御が作動する排煙温度の限界値をプログラムで管理しています。排煙温度がプログラム上の規定値を超えた場合、出力は強制的に最小出力に移行し、排煙ファンが最大速度で稼働します。

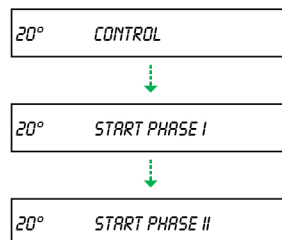
◆第三段階 ストーブの自動停止

事故を防ぐため、機器を強制的に停止させる排煙ファンの限界温度をプログラムで管理しています。排煙温度がプログラム上の規定値を超えた場合、機器は強制的にシャットダウンモードに入ります。

運転スタート

運転をスタートすると、機器はスタートフェーズを開始します。ペレットの供給と着火が自動的に行われ、炎が安定すると通常運転に移行します。

- ①  を数秒間長押しすると、ディスプレイに「CONTROL」が表示され運転を開始します。
※各種センサーが適切に接続されているか自動で検知するためのフェーズです。
- ② センサーの検知が終了すると、ディスプレイに「START PHASE I」が表示され、排煙ファンと自動着火プラグが作動しペレットの送り込みを開始します。
※ペレットが着火しにくい場合は、運転前に炉内の着火プラグにペレットを少量入れておくとう着火しやすくなります。
※ペレットに着火させるためのフェーズです。
- ③ 排煙温度の上昇を検知すると、ディスプレイに「START PHASE II」が表示されます。
※着火した炎を大きくするためのフェーズです。
- ④ 排煙温度が65℃以上になると、ディスプレイが通常画面に移行し送風ファンが作動します。
※運転スタートから15分前後で通常画面に移行します。
※通常画面に移行すると、室温・火力・風力の設定を変更することができます。



室温を変更する

任意の室温を設定します。

- ①  を押すと、ディスプレイに「●●° SET ROOM TEMP」と表示され、現在設定している室温が表示されます。
- ②   で7～30℃の範囲で好みの室温を選択し  を押すと、設定が完了し通常画面に戻ります。



火力を変更する

任意の火力を設定します。

- ①  を押すと、ディスプレイに「P● SET POWER」と表示され、現在設定している火力が表示されます。
- ②   でP1～P5の範囲で好みの出力を選択し  を押すと、設定が完了し通常画面に戻ります。



風量を変更する

P120は送風ファンを1個搭載しており、火力に応じて自動で風量を調整します。
安全上の理由から任意で風量を変更することはできません。

燃焼皿の自動クリーニング

機器が通常運転を続けると一定時間ごとに燃焼皿の自動クリーニングを行ないます。

クリーニング中はディスプレイに「CLEANING GRATE」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。クリーニングが終了すると表示が消え、元の運転に戻ります。

※自動クリーニングは、燃料皿に堆積した「パウダー状の灰」を取り除く機能です。クリンカー（塊状の灰）は取り除けませんので、別途日々の掃除でキレイにしてください。

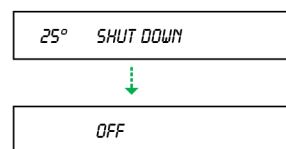
運転を終了する

シャットダウンフェーズを開始すると、ペレットの供給が止まり、機器が冷えるまで排煙ファンが最低8分間作動し、機器が停止します。

※シャットダウンフェーズ中は絶対に電源を抜かないでください。機器に熱がこもり非常に危険です。

※機器が停止したら、燃焼皿の中に残っている灰やペレットを全て取り除きキレイに掃除してください。

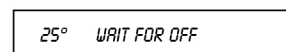
- ①  を数秒間長押しすると、ディスプレイに「SHUT DOWN」が表示され、機器はシャットダウンフェーズを開始します。
※ペレットの供給が止まり、燃焼皿の中のペレットが燃え尽き自然消火するのを待ちます。
※機器を冷やすため、排煙ファンが最大速度で作動します。
- ② 機器が十分冷えると、排煙ファンが運転を停止し、ディスプレイに「OFF」と表示されます。
※「OFF」が表示されると、機器はいつでも運転を開始できる状態です。



シャットダウンフェーズ中の再起動

一度シャットダウンフェーズを開始すると、ストーブが規定温度まで冷えない限り再起動はできないようになっています。

- ① 機器が冷える前に  を押した場合、ディスプレイに「WAIT FOR OFF」と表示され引き続きシャットダウンフェーズを継続します。
- ② 機器が冷えるとディスプレイに「OFF」と表示されます。その後再起動してください。

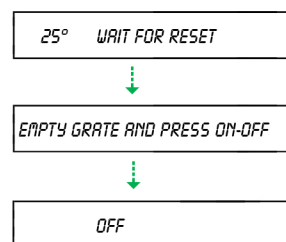


スタートフェーズ中のシャットダウンや電力遮断

スタートフェーズ中に  を押してシャットダウンする場合、その時の排煙温度に応じて対応が変わります。

- ① ディスプレイに「WAIT FOR RESET」が表示され、機器が冷えてから運転を停止します。
- ② 運転が停止すると、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ③ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再スタートできるようになります。

※燃料に火が付く前など、シャットダウンした時点で排煙温度が規定値より低かった場合、機器はすぐに運転を停止し、ディスプレイに「OFF」が表示されます。



停電による電力遮断

運転中に停電等で一時的な電力遮断が起きると、機器は遮断時間に応じて下記の通り作動します。

◆タイマー設定をしていない場合

- ・30秒未満の電力遮断 …… 電力が復旧すると、機器は通常どおり運転を続けます。
- ・30秒以上の電力遮断 …… 電力が復旧すると、機器はシャットダウンします。以後、条件が整うと自動で運転を開始します。

◆タイマー設定中の場合

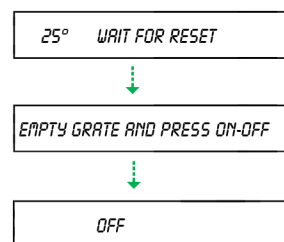
- ・機器が運転開始時間の前後で停電した場合 …… タイマー設定はキャンセルとなり、以後、自動着火はしません。
- ・機器が運転停止時間の前後で停電した場合 …… タイマー設定はキャンセルとなり、以後はタイマー設定をしていないときと同じ動作を行います。
- ・機器がタイマー制御されている時間内で停電した場合 …… タイマー設定はキャンセルされません。

機器がエラー停止した際の復旧方法

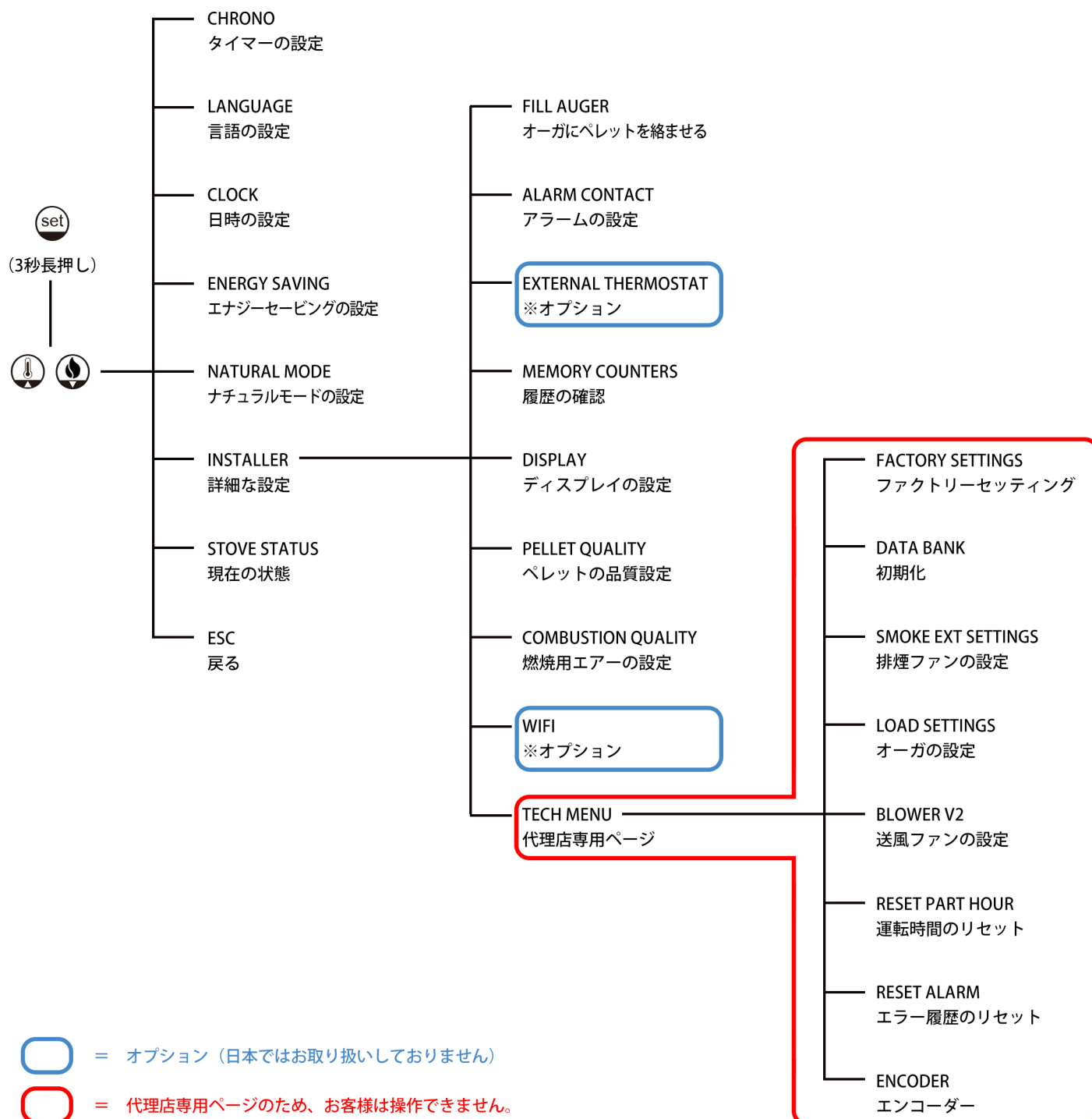
安全装置が作動すると、アラーム音が鳴り機器がエラー停止します。

以下の手順で復旧してください。

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② ディスプレイに「WAIT FOR RESET」が表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。
※機器が冷えるまで操作できません。
- ③ 機器が冷えると排煙ファンが停止し、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ④ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再起動できるようになります。
※この時点でエラー原因が解消していない場合は、トラブルシューティング等を参考に別途対応します。
※エラーの原因が解消されないと、警告は解除されず、機器は再起動できません。
※エラーの原因を解消すると、ディスプレイに「OFF」と表示され再起動できるようになります。



メニュー画面一覧



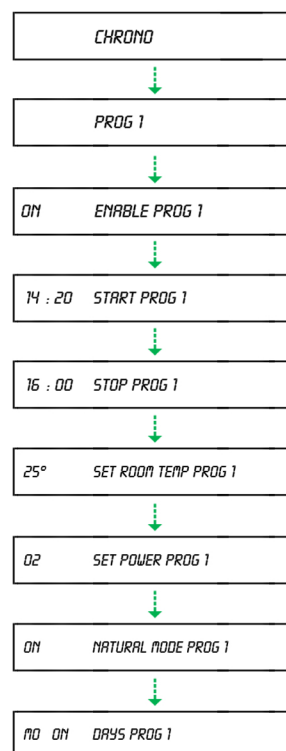
【CHRONO】タイマーの設定

任意で設定した時間に基づき、自動的にストーブを運転・停止する機能です。タイマー設定は6パターンのバリエーションを設定することができます。

- ・混乱を避けるため、1つ1つのパターンの作動日時が重ならないよう設定することをオススメします。
- ・パターンを組み合わせる際は、正しい操作に必要な機器の冷却時間を確実に確保するため、停止と起動の間を2時間以上空けてください。
- ・タイマー設定中も、手動操作で出力や室温設定を変更することは可能です。
- ・タイマーの設定時間が重複した場合は、常に最初に設定したパターンが有効となります。
- ・タイマー設定は、現在時刻を設定していないと使用できません。詳細は「CLOCK」の項目を参照してください。
- ・エナジーセービングと併用が可能です。タイマーで設定した時間の範囲内でエナジーセービングが作動します。詳細は「ENERGY SAVING」の項目を参照してください。
- ・ナチュラルモードと併用が可能です。タイマーで設定した時間の範囲内でナチュラルモードが作動します。詳細は「ナチュラルモードの設定」の項目を参照してください。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「CHRONO」を選択し  ボタンを押します。
- ③ ディスプレイに「PROG ●」と表示されたら  ボタンで設定・編集したいプログラムナンバーを選択し  ボタンを押します。
- ④ ディスプレイに「●● ENABLE PROG 1」と表示されたら、 ボタンでタイマー設定を作動する場合は「ON」、作動させない場合は「OFF」を選択し  ボタンを押します。
- ⑤ ディスプレイに「●● : ●● START PROG 1」と表示されたら、 ボタンで運転開始時間を10分単位で選択し  ボタンを押します。
※「OFF」を選択すると、ストーブが停止したあとは再運転しくなりません。
- ⑥ ディスプレイに「●● : ●● STOP PROG 1」と表示されたら、 ボタンで運転終了時間を10分単位で選択し  ボタンを押します。
※「OFF」を選択すると、ストーブが停止することなく運転を続けます。
- ⑦ ディスプレイに「●● SET ROOM TEMP PROG 1」と表示されたら、 ボタンで任意の室温を選択し  ボタンを押します。
- ⑧ ディスプレイに「●● SET POWER PROG 1」と表示されたら、 ボタンで任意の出力を選択し  ボタンを押します。
- ⑨ ディスプレイに「●● DAYS PROG 1」と表示されたら、 ボタンで曜日を選択し、 ボタンで作動させる場合は「ON」、作動させない場合は「OFF」を選択し  ボタンを押します。
※MO=月曜日、TU=火曜日、WE=水曜日、TH=木曜日、FR=金曜日、SA=土曜日、SU=日曜日
- ⑩ 曜日の設定が完了すると、②の画面に戻ります。他のプログラムを設定・編集する場合は③～⑨を繰り返してください。

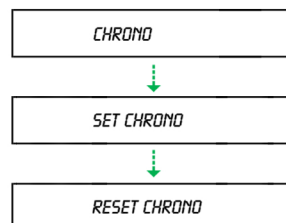
※①～②設定中に  ボタンを押すとメニュー画面に戻り、③～⑨設定中に  ボタンを押すと②に戻ります。



◆全てのプログラムの一括設定と解除

全てのプログラムナンバー（PROG1～6）を一括でONまたはOFFに設定することができます。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「CHRONO」を選択し  ボタンを押します。
- ③ ディスプレイに「PROG ●」と表示されたら  ボタンを2回押します。
- ④  ボタンでPROG1～6を全て作動させる場合は「SET CHRONO」、作動させない場合は「RESET CHRONO」を選択し  ボタンを押します。



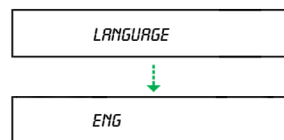
【LANGUAGE】言語の設定

リモコンに表示される言語を設定します。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②   ボタンで「LANGUAGE」を選択し  ボタンを押します。
- ③   ボタンで任意の言語を選択し  ボタンを押します。

◆選択できる言語

- ENG=英語
- FRA=フランス語
- DEU=ドイツ語
- NED=オランダ語
- POR=ポルトガル語
- ESP=スペイン語
- ITA=イタリア語

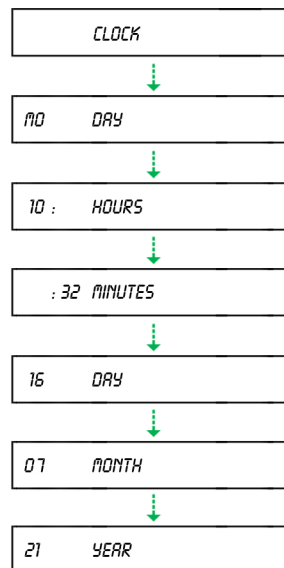


【CLOCK】時刻の設定

現在の日時を設定します。

※タイマー機能（CHRONO）は「CLOCK」を設定していないと作動させることができません。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②   ボタンで「CLOCK」を選択し  ボタンを押します。
- ③ ディスプレイに「●● DAY」と表示されたら、  ボタンで曜日を選択し  ボタンを押します。
- ④ ディスプレイに「●● HOURS」と表示されたら、  ボタンで時間を選択し  ボタンを押します。
- ⑤ ディスプレイに「●● MINUTES」と表示されたら、  ボタンで分を選択し  ボタンを押します。
- ⑥ ディスプレイに「●● DAY」と表示されたら、  ボタンで日にちを選択し  ボタンを押します。
- ⑦ ディスプレイに「●● MONTH」と表示されたら、  ボタンで月を選択し  ボタンを押します。
- ⑧ ディスプレイに「●● YEAR」と表示されたら、  ボタンで年を選択し  ボタンを押します。



【ENERGY SAVING】エナジーセービングの設定

エナジーセービングとは、室温を一定に保つため機器が自動運転を行なう省エネ運転の機能です。運転と停止を自動的に行なうことで、過剰暖房を防ぎ、ペレットの消費を抑えることができます。任意で設定した室温に対し±3℃の範囲で機器を運転・停止するための上限・下限の温度を設定します。

※エナジーセービング起動中に、手動操作で機器をシャットダウンした場合、エナジーセービングによる再起動はしません。その場合は改めて手動操作で運転をスタートさせてください。

※タイマー設定と併用が可能です。タイマーで設定した時間の範囲内でエナジーセービングが作動します。タイマーの設定については「CHRONO」の項目を参照してください。

※「EXTERNAL THERMOSTAT」が有効になっていると、エナジーセービングは設定できません。これは日本では使用できない機能ですので、必ず無効のままにしておいてください。（初期設定では無効になっています。）

◆上限温度の管理

- ・任意で設定した室温に達すると、自動的に出力が1に下がり、運転を続けます。
- ・上限温度（STOP）の設定で「OFF」を選択した場合、シャットダウンせずに出力1で運転を続けます。
- ・上限温度（STOP）の設定で「+1° ～ +3°」を選択した場合、設定した上限温度に達するとディスプレイに「ENERGY OK」と表示され機器はシャットダウンフェーズに入ります。

◆下限温度の管理

- ・下限温度（START）の設定で「OFF」を選択した場合、シャットダウン後は再運転を行わず停止状態を維持します。
- ・下限温度（START）の設定で「-1° ～ -3°」を選択した場合、シャットダウン後の停止中のディスプレイには「OFF E」と表示され、設定した下限温度まで室温が下がると機器が自動的に運転をはじめます。

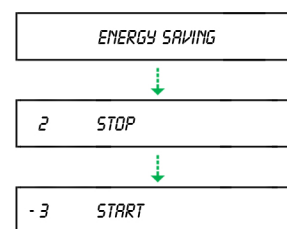
◆エナジーセービングが作動している場合

- ・ディスプレイに「ENS」と表示されます。

◆エナジーセービングを使用しない場合

- ・STOP、START共に「OFF」を選択します。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「ENERGY SAVING」を選択し  ボタンを押します。
- ③ ディスプレイに「● STOP」と表示されたら、 ボタンで機器が停止する上限温度を選択し  ボタンを押します。
※「OFF」を選択すると上限温度を超えても機器は停止せず運転を続けます。
- ④ ディスプレイに「-● STOP」と表示されたら、 ボタンで機器が再運転を開始する下限温度を選択し  ボタンを押します。
※「OFF」を選択すると機器は再運転は行わず停止したままとなります。



例) 室温25℃設定／上限温度+3℃／下限温度-2℃の設定にした場合

- ① 室温が25℃になると、自動的に出力1に切り替わり運転を続けます。
 - ② 室温が28℃になると機器が運転を停止します。
 - ③ 室温が23℃になると、自動的に機器が運転をスタートします。
- ※①～③を繰り返します。

例) 室温23℃設定／上限温度+2℃／下限温度OFFの設定にした場合

- ① 室温が23℃になると、自動的に出力1に切り替わり運転を続けます。
 - ② 室温が25℃になると機器が運転を停止します。
- ※再運転はしません。

【NATURAL MODE】ナチュラルモードの設定

送風ファンを作動させず、送風無しで緩やかな輻射運転をすることができます。機器本体からやんわりと熱を感じられる穏やかな運転で、静音なのも特徴です。

※ナチュラルモードが作動中でも、機器の安全確保のため排煙ファンは止まりません。

◆ナチュラルモードを作動させる際の注意事項

- ・原則として低出力（出力1～2程度）でのみ使用してください。
- ・直前まで高出力で使用していた場合は、一度低出力で数分運転し機器の温度を下げてからナチュラルモードの設定を行なってください。
- ・ナチュラルモード作動中でも、機器に熱が籠もり過ぎると送風ファンは自動的に作動します。温度が下がると再び停止します。
- ・ナチュラルモード起動中に出力を高くすると、出力に応じて自動的に送風ファンが作動します。
- ・ナチュラルモードは安全を保つために機器の温度が一定以下に下がらなければ作動しないようになっています。ナチュラルモードを設定しても、その時点で機器が高温状態の場合はすぐには送風ファンは止まりません。温度が下がると自動的に止まります。

◆ナチュラルモードの出力設定

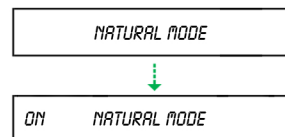
- ・機器の安全上の理由から、ナチュラルモードで運転する際は出力1～2のみで運転することができます。
- ・ナチュラルモード作動中に出力を変更する場合は、 ボタンを押します。

10:30 P1 N

◆ナチュラルモードが作動している場合

- ・運転中はディスプレイに「N」と表示されます。
- ・タイマー機能や手動で機器をシャットダウンし停止中の場合は、ディスプレイに「OFF N」と表示されます。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「NATURAL MODE」を選択し  ボタンを押します。
- ⑧ ディスプレイに「●● NATURAL MODE」と表示されたら、 ボタンでナチュラルモードを設定を作動する場合は「ON」、作動させない場合は「OFF」を選択し  ボタンを押します。



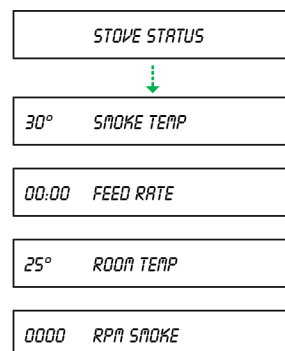
【STOVE STATUS】現在の状態

現在の機器の状態を確認することができます。

◆確認できる項目

- ・SMOKE TEMP 排煙温度
- ・FEED RATE オーガの回転速度
- ・ROOM TEMP 室温センサーが検知している室温
- ・RPM SMOKE 排煙ファンの回転速度

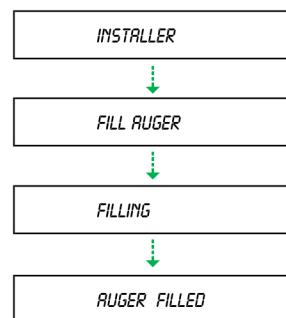
- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「STOVE STATUS」を選択し  ボタンを押します。
- ③ 各項目が数秒おきに切り替わりながら順に表示されます。
- ④  ボタンを押すと元の画面に戻ります。



【INSTALLER < FILL AUGER】オーガにペレットを絡ませる

はじめて機器を稼働する場合やオフシーズン明けなど、ペレットタンクが空になっている際はオーガ（スクリュー）にペレットが絡んでいません。ペレットが絡んでいない状態で機器の運転をスタートしても、規定時間内に着火できず着火不良でエラーとなります。そのため、機器の運転をスタートする前にオーガにペレットを絡ませる必要があります。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「INSTALLER」を選択し  ボタンを押します。
- ③  ボタンで「FILL AUGER」を選択し  ボタンを押します。
- ④ ディスプレイに「FILLING」と表示され、ペレットの送り込みを開始します。
 ※予めペレットタンクに燃料を補充しておきましょう。
 ※この機能は機器がOFF状態のときでないと使用できません。それ以外のタイミングで使用しようとすると、ディスプレイに「NOT ALLOWED」と表示され作動しません。
- ⑤ 約600秒経過すると自動的にオーガが停止し、ディスプレイに「AUGER FILLED」と表示されペレットの充填が完了します。



【INSTALLER < ALARM CONTACT】※オプション（日本ではお取り扱いできません）

この機能は、日本でお取り扱いしておりません。

【INSTALLER < EXTERNAL THERMOSTAT】※オプション（日本ではお取り扱いしておりません）

この機能は、日本ではお取り扱いしておりません。以下の通り、設定は常に「MODULATE（無効状態）」にしてご使用ください。
 ※初期状態では「MODULATE」に設定されています。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「INSTALLER」を選択し  ボタンを押します。
- ③  ボタンで「EXTERNAL THERMOSTAT」を選択し  ボタンを押します。
- ④  ボタンで「MODULATE」を選択し  ボタンを押します。
 ※誤って「STOP」に設定してしまうと、ディスプレイに「T」と表示され、エナジーセービングが使用できなくなります。

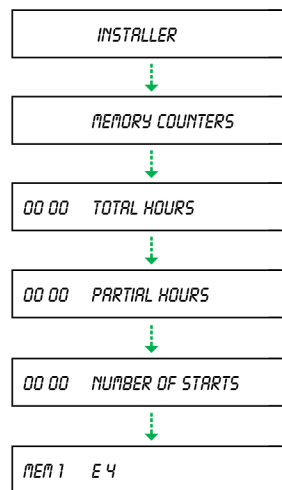
【INSTALLER < MEMORY COUNTERS】履歴の確認

運転情報の履歴を確認することができます。

◆確認できる項目

- ・TOTAL HOURS これまでの総運転時間
- ・PARTIAL HOURS 前回リセット後からの運転時間
- ・NUMBER OF STARTS 着火回数
- ・MEM1～5 直前5回のエラー履歴

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「INSTALLER」を選択し  ボタンを押します。
- ③  ボタンで「FILL AUGER」を選択し  ボタンを押します。
- ④  ボタンを押す度に「TOTAL HOURS」「PARTIAL HOURS」「NUMBER OF STARTS」が順に表示されます。
- ⑤ ディスプレイに「MEM 1」と表示されたら、 ボタンを押す度に過去5回分のエラー履歴を順に確認することができます。



【DISPLAY】ディスプレイの設定

ディスプレイの表示設定できます。

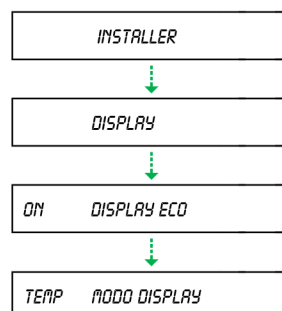
※リモコンの操作音をOFFに設定しても、安全装置が作動しエラーが発生した際の警告音は消音されません。

※機器の受信音を消音する場合は「BEEP」の項目を参照してください。

◆設定できる項目

- ・DISPLAY ECO 省電力設定（1分以上無操作状態が続くとディスプレイが非表示となる）
- ・MODE DISPLAY ディスプレイの通常画面で現在時刻（HOURS）と現在の室温（TEMP）どちらを 常時表示するかを選択する

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「INSTALLER」を選択し  ボタンを押します。
- ③  ボタンで「DISPLAY」を選択し  ボタンを押します。
- ④ ディスプレイに「●● DISPLAY ECO」と表示されたら、 ボタンで省電力設定にする場合は「ON」しない場合は「OFF」を選択し  ボタンを押します。
- ⑤ ディスプレイに「●● MODE DISPLAY」と表示されたら、 ボタンで現在時刻（HOURS）と現在の室温（TEMP）どちらか常時表示する方を選択し  ボタンを押します。



【INSTALLER < PELLET QUALITY】ペレットの品質設定

ペレットの品質や特性（燃焼効率や崩れやすさ等）は製造元によりそれぞれ異なります。この機能は、そういった個々のペレットの傾向を踏まえ調整することで、機器のパラメーターと相互作用しより快適な燃焼環境を整えることができます。

更に、「COMBUSTION QUALITY」と併用することで、より良い最適環境を整えることができます。

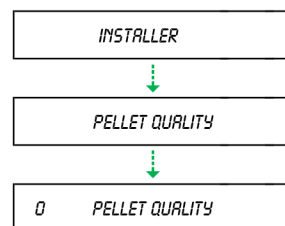
工場出荷時の初期設定は「0」です。0を標準と定義し、下記に強く当てはまるほど数値が大きくなるよう設定します。

−3	−2	−1	0	+1	+2	+3
◆−の設定			標準	◆+の設定		
・燃焼皿に灰やクリンカーが堆積しやすい。 ・1時間あたりのペレット消費量が記載よりも多いと感じる。				・最大出力で運転しても炎が常に炉内の低い位置で燃えている。 ・ペレットの長さが30mm以上。 ・1時間あたりのペレット消費量が少ないと感じる。		

※正確な判断がしにくくなるため「PELLET QUALITY」と「COMBUSTION QUALITY」は同じタイミングで変更しないでください。必ず片方ずつ変更し、様子を見ながら段階を踏んで変更してください。

※必要に応じて数時間〜数日程燃焼テストを行ない、燃焼状態やエラーの頻度などを確認し変更を加えていく必要があります。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「INSTALLER」を選択し  ボタンを押します。
- ③  ボタンで「PELLET QUALITY」を選択し  ボタンを押します。
- ④ 上記を参考に、 ボタンで燃料の品質に応じて−3〜+3の範囲で選択し  ボタンを押します。



【INSTALLER < COMBUSTION QUALITY】排煙スピードの設定

住宅の気密性、煙突の配管方法、標高などの様々な設置環境により、煙突内のドラフトはそれぞれ異なります。この機能は、そういった個々の設置環境に合わせて排煙ファンの速度を調整することで、機器のパラメーターと相互作用しより快適な燃焼環境を整えることができます。

更に、「PELLET QUALITY」と併用することで、より良い最適環境を整えることができます。

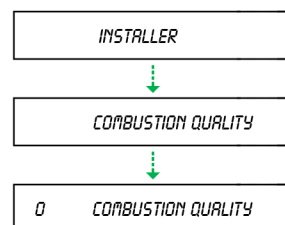
工場出荷時の初期設定は「0」です。0を標準と定義し、下記に強く当てはまるほど数値が大きくなるよう設定します。

−3	−2	−1	0	+1	+2	+3
◆−の設定			標準	◆+の設定		
・ドラフトが強すぎて、炎の立ち上がり位置が低くなっている。				・ガラスが煤で汚れやすい ・燃焼皿の中にペレットが溜まりすぎている。 ・給気ダクトを長く設計している		

※正確な判断がしにくくなるため「COMBUSTION QUALITY」と「PELLET QUALITY」は同じタイミングで変更しないでください。必ず片方ずつ変更し、様子を見ながら段階を踏んで変更してください。

※必要に応じて数時間〜数日程燃焼テストを行ない、燃焼状態やエラーの頻度などを確認し変更を加えていく必要があります。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「INSTALLER」を選択し  ボタンを押します。
- ③  ボタンで「COMBUSTION QUALITY」を選択し  ボタンを押します。
- ④ 上記を参考に、 ボタンで燃焼具合に応じて−3〜+3の範囲で選択し  ボタンを押します。



【INSTALLER < WIFI】※オプション（日本ではお取り扱いしておりません）

この機能は、日本ではお取り扱いしておりません。以下の通り、設定は常に「OFF（無効状態）」にしてご使用ください。
※初期状態では「OFF」に設定されています。

- ①  ボタンを3秒長押しし、メインメニューに入ります。
- ②  ボタンで「INSTALLER」を選択し  ボタンを押します。
- ③  ボタンで「WIFI」を選択し  ボタンを押します。
- ④  ボタンで「WIFI-WPS」を選択し  ボタンを押します。
- ⑤  ボタンで「OFF」を選択し  ボタンを押します。

【INSTALLER < TECH MENU】代理店専用ページ

この機能は、代理店専用の詳細設定を行なう機能のため、お客様は使用できません。
誤操作を防ぐためパスコードを入力しないと操作できないようになっています。

【E1】排煙室の低圧

◆症状

プレッシャースイッチ、ドアの開閉センサー、ペレットタンク蓋の開閉センサーのいずれかが異常を検知しました。
機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

◆復旧方法

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② ディスプレイに「WAIT FOR RESET」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。
※機器が冷えるまで操作できません。
- ③ 機器が冷えると排煙ファンが停止し、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ④ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再スタートできるようになります。
※下記を参考にエラーの原因を解消してください。
※エラーの原因が解消されないと、警告は解除されず、機器は再起動できません。
※エラーの原因を解消すると、ディスプレイに「OFF」と表示され再起動できるようになります。

◆原因と解決方法

- | | |
|---------------------|---------------------------------------|
| ・燃焼皿が汚れている | 燃焼皿が灰やクリンカーで塞がれていないか確認してください。 |
| ・炉内に空気が入り込んでいる | ドアが開いていないか、ドアガasketが劣化していないか確認してください。 |
| ・ペレットタンクの蓋が開いている | タンクの蓋を閉じてください。 |
| ・排煙が阻害されている | 煙突や排煙ファンを掃除してください。 |
| ・プレッシャースイッチの圧力異常 | プレッシャースイッチの接続ホースに目詰まりや破損がないか確認してください。 |
| ・プレッシャースイッチが故障している | プレッシャースイッチを交換してください。 |
| ・基板が故障している | 基板を交換してください。 |
| ・オーガモーターが故障している | オーガモーターを交換してください。 |
| ・ドアの開閉センサーが故障している | ドアの開閉センサーを交換してください。 |
| ・タンク蓋の開閉センサーが故障している | ペレットタンク蓋の開閉センサーを交換してください。 |

【E2】プレッシャースイッチの異常

◆症状

機器を運転スタートした際に、プレッシャースイッチが異常を検知しました。
機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

◆復旧方法

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② ディスプレイに「WAIT FOR RESET」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。
※機器が冷えるまで操作できません。
- ③ 機器が冷えると排煙ファンが停止し、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ④ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再スタートできるようになります。
※下記を参考にエラーの原因を解消してください。
※エラーの原因が解消されないと、警告は解除されず、機器は再起動できません。
※エラーの原因を解消すると、ディスプレイに「OFF」と表示され再起動できるようになります。

◆原因と解決方法

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| ・排煙が阻害されている | 煙突や排煙ファンを掃除してください。 |
| ・プレッシャースイッチの圧力異常 | プレッシャースイッチの接続ホースに目詰まりや破損がないか確認してください。 |
| ・プレッシャースイッチが故障している | プレッシャースイッチを交換してください。 |

【E3】ペレットタンク内の異常高温

◆症状

ペレットタンク内が高温を検知しました。

機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

◆復旧方法

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② ディスプレイに「WAIT FOR RESET」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。
※機器が冷えるまで操作できません。
- ③ 機器が冷えると排煙ファンが停止し、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ④ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再スタートできるようになります。
※下記を参考にエラーの原因を解消してください。
※エラーの原因が解消されないと、警告は解除されず、機器は再起動できません。
※エラーの原因を解消すると、ディスプレイに「OFF」と表示され再起動できるようになります。

◆原因と解決方法

- ・燃料の品質が良くない 燃料を交換してください。
- ・排煙が阻害されている 煙突や排煙ファンを掃除してください。
- ・機器の付近に熱がこもっている 機器の設置場所付近の通気を良くしてください。
- ・プレッシャースイッチの圧力異常 プレッシャースイッチの接続ホースに目詰まりや破損がないか確認してください。
- ・タンクの温度センサーが故障している タンクの温度センサーを交換してください。
- ・基板が故障している 基板を交換してください。

【E4】排煙温度の異常高温

◆症状

排煙温度が異常高温を検知しました。機器を安全に運転する限界温度を上回ったため運転を継続できません。

機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

◆復旧方法

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② ディスプレイに「WAIT FOR RESET」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。
※機器が冷えるまで操作できません。
- ③ 機器が冷えると排煙ファンが停止し、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ④ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再スタートできるようになります。
※下記を参考にエラーの原因を解消してください。
※エラーの原因が解消されないと、警告は解除されず、機器は再起動できません。
※エラーの原因を解消すると、ディスプレイに「OFF」と表示され再起動できるようになります。

◆原因と解決方法

- ・燃料の品質が良くない 燃料を交換してください。
- ・排煙が阻害されている 煙突や排煙ファンを掃除してください。
- ・機器の付近に熱がこもっている 機器の設置場所付近の通気を良くしてください。
- ・排煙センサーが故障している 排煙センサーを交換してください。
- ・基板が故障している 基板を交換してください。
- ・パラメーター設定が合っていない 販売店による排煙ファンの再設定が必要です。

【E6】オーガの異常

◆症状

オーガが異常を検知しました。

機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

◆復旧方法

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② ディスプレイに「WAIT FOR RESET」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。
※機器が冷えるまで操作できません。
- ③ 機器が冷えると排煙ファンが停止し、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ④ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再スタートできるようになります。
※下記を参考にエラーの原因を解消してください。
※エラーの原因が解消されないと、警告は解除されず、機器は再起動できません。
※エラーの原因を解消すると、ディスプレイに「OFF」と表示され再起動できるようになります。

◆原因と解決方法

- ・オーガが詰まっている タンク内とオーガを掃除し詰まりを解消してください。
- ・燃料の品質が良くない 燃料を交換してください。
- ・基板が故障している 基板を交換してください。
- ・オーガが故障している オーガを交換してください。
- ・パラメーター設定が合っていない 販売店による排煙ファンの再設定が必要です。

【E7】排煙温度の異常低温

◆症状

排煙センサーが異常低温を検知しました。機器を運転するのに必要な最低排煙温度を下回ったため運転を継続できません。

機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

◆復旧方法

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② ディスプレイに「WAIT FOR RESET」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。
※機器が冷えるまで操作できません。
- ③ 機器が冷えると排煙ファンが停止し、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ④ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再スタートできるようになります。
※下記を参考にエラーの原因を解消してください。
※エラーの原因が解消されないと、警告は解除されず、機器は再起動できません。
※エラーの原因を解消すると、ディスプレイに「OFF」と表示され再起動できるようになります。

◆原因と解決方法

- ・ペレットが空になっている ペレットを補充してください。
- ・ペレットが詰まっている タンク内とオーガを掃除し詰まりを解消してください。
- ・燃料の品質が良くない 燃料を交換してください。
- ・燃焼皿が汚れている 燃焼皿が灰やクリンカーで塞がれていないか確認してください。
- ・基板が故障している 基板を交換してください。
- ・パラメーター設定が合っていない 販売店による排煙ファンの再設定が必要です。

【E8】排煙センサーの接続異常

◆症状

排煙センサーの接続に異常を検知しました。
機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

◆復旧方法

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② ディスプレイに「WAIT FOR RESET」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。
※機器が冷えるまで操作できません。
- ③ 機器が冷えると排煙ファンが停止し、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ④ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再スタートできるようになります。
※下記を参考にエラーの原因を解消してください。
※エラーの原因が解消されないと、警告は解除されず、機器は再起動できません。
※エラーの原因を解消すると、ディスプレイに「OFF」と表示され再起動できるようになります。

◆原因と解決方法

- ・排煙センサーが故障している 排煙センサーが断線または未接続になっていないか確認し、必要に応じて交換してください。
- ・基板が故障している 基板を交換してください。

【E9】着火不良

◆症状

スタートフェーズⅠの規定時間内に着火が確認できず、着火不良となりました。
機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

◆復旧方法

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② ディスプレイに「WAIT FOR RESET」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。
※機器が冷えるまで操作できません。
- ③ 機器が冷えると排煙ファンが停止し、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ④ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再スタートできるようになります。
※下記を参考にエラーの原因を解消してください。
※エラーの原因が解消されないと、警告は解除されず、機器は再起動できません。
※エラーの原因を解消すると、ディスプレイに「OFF」と表示され再起動できるようになります。

◆原因と解決方法

- ・ペレットが空になっている ペレットを補充してください。
- ・オーガに燃料が絡んでいない 「FILL AUGER」の項目を参照してください。
- ・ペレットが詰まっている タンク内とオーガを掃除し詰まりを解消してください。
- ・燃料の品質が良くない 燃料を交換してください。
- ・燃焼皿が汚れている 燃焼皿が灰やクリンカーで塞がれていないか確認してください。
- ・基板が故障している 基板を交換してください。
- ・着火ヒーターが故障している 着火ヒーターを交換してください。
- ・パラメーター設定が合っていない 販売店による排煙ファンの再設定が必要です。

【E10】室温センサーの接続不良

◆症状

機器に取り付ける室温センサーが正しく接続されておらず、室温を計測できません。

機器はシャットダウンせず運転を続けますが、室温設定は無効となります。

◆復旧方法

- ① 室温センサーの接続を確認し、正しい位置に直してください。
- ② 接続が復活するとディスプレイの表示は消え、機器は通常画面に戻ります。

◆原因と解決方法

- ・室温センサーが破損している 室温センサーを交換してください。
- ・室温センサーが接続されていない 室温センサーを正しく接続してください。「電気系統の接続」の項目を参照してください。

【E12】排煙ファンの接続不良

◆症状

排煙ファンの接続に異常を検知しました。

機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

◆復旧方法

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② 設置販売店へご相談ください。

◆原因と解決方法

- ・エンコーダーが故障している 接続を確認し、必要に応じて交換してください。
- ・基板が故障している 基板を交換してください。
- ・ヒューズが飛んだ ヒューズを交換してください。
- ・排煙ファンが汚れている 排煙ファンを掃除してください。

【E14】着火不良

◆症状

スタートフェーズIIの規定時間内に排煙温度が規定値に達せず、着火不良となりました。

機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

◆復旧方法

- ①  ボタンを押すとアラーム音が止まります。
- ② ディスプレイに「WAIT FOR RESET」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。
※機器が冷えるまで操作できません。
- ③ 機器が冷えると排煙ファンが停止し、ディスプレイに「EMPTY GRATE AND PRESS ON-OFF」と表示されます。
- ④ 燃焼皿を掃除し、 を押すと、ディスプレイに「OFF」が表示され、ストーブが再スタートできるようになります。
※下記を参考にエラーの原因を解消してください。
※エラーの原因が解消されないと、警告は解除されず、機器は再起動できません。
※エラーの原因を解消すると、ディスプレイに「OFF」と表示され再起動できるようになります。

◆原因と解決方法

- ・ペレットが空になっている ペレットを補充してください。
- ・ペレットが詰まっている タンク内とオーガを掃除し詰まりを解消してください。
- ・燃料の品質が良くない 燃料を交換してください。
- ・燃焼皿が汚れている 燃焼皿が灰やクリンカーで塞がれていないか確認してください。
- ・基板が故障している 基板を交換してください。
- ・パラメーター設定が合っていない 販売店による排煙ファンの再設定が必要です。

【E19】排煙センサーの接続異常

◆症状

ALARM CONTACTに接続されている外部安全装置が作動しました。

機器はシャットダウンフェーズに入り、運転を停止します。

※この機能は日本では取扱いしておりません。代理店に相談してください。

リモコンやコントロールパネルが一切反応しないときは

◆症状

リモコンや機器のコントロールパネルに通電されず一切の操作ができない。

※リモコンはオプションです。

◆復旧方法

- ① 下記を参考にエラーの原因を解消します。
- ② エラー原因が解消すると、ディスプレイに「OFF」を表示され再起動が可能となります。

◆原因と解決方法

- ・建物の電源障害 停電やブレーカーが落ちるなどの場合に起きることがあります。
建物の電気系統の接続を確認してください。
- ・ヒューズが飛んでいる ヒューズを交換してください。
- ・電源ケーブルの接続不良 電源ケーブルの接続を確認し、必要に応じて交換してください。
- ・コントロールパネルの故障 コントロールパネルの接続を確認し、必要に応じて交換してください。
- ・基板が故障している 基板を交換してください。

【CLEANING GRATE】 燃焼皿の自動クリーニング

自動で燃焼皿に溜まった灰をクリーニングしています。
※「燃焼皿の自動クリーニング」の項目を参照してください。

【EMPTY GRATE AND PLESS ON-OFF】 燃焼皿を掃除する

機器がエラー停止した際に、燃焼皿の掃除を促すために表示されます。
※「機器がエラー停止した際の復旧方法」の項目を参照してください。

【SERVICE TIME】 メンテナンス時期のお知らせ

機器はメンテナンス不良による故障を防ぐため、2000時間運転する毎に定期メンテナンスを行なうために、ディスプレイに「SERVICE TIME」と表示します。代理店による定期メンテナンスを行なってください。
※この表記は代理店でないと消去できません。

【EXT THERM OK】 ※オプション（日本では使用できません）

この機能は日本では使用できません。
※「EXTERNAL THERMOSTAT」の項目を参照してください。

【OFF T】 ディスプレイに「OFF T」と表示されている ※オプション（日本では使用できません）

この機能は日本では使用できません。
※「EXTERNAL THERMOSTAT」の項目を参照してください。

【ENERGY OK】 エナジーセービングが上限温度に達した

エナジーセービングの上限温度に達した際に表示されます。
※「ENERGY SAVING」の項目を参照してください。

【OFF E】エナジーセービングにより停止中

エナジーセービングにより機器が運転を停止中の際に表示されます。

※「ENERGY SAVING」の項目を参照してください。

【ENS】エナジーセービングが作動中

エナジーセービングで運転している際に表示されます。

※「ENERGY SAVING」の項目を参照してください。

【OFF N】ナチュラルモード設定のまま停止中

ナチュラルモードに設定されたまま機器が運転を停止中の際に表示されます。

※「NATURAL MODE」の項目を参照してください。

【P1 N】ナチュラルモードが作動中

ナチュラルモードで運転している際に表示されます。

※「NATURAL MODE」の項目を参照してください。

【WAIT FOR RESET】機器を冷やす

シャットダウンに伴い機器を冷やしています。

※「機器がエラー停止した際の復旧方法」の項目を参照してください。

【RESTART POWER FAILURE】電力が遮断された

停電等により一時的に電力が遮断された後、復旧したときに表示されます。

※「停電による電力遮断」の項目を参照してください。

【NOT ALLOWED】設定拒否

作動する条件が揃っていない時に表示されます。

※「FILL AUGER」の項目を参照してください。

【LOCKED KEYBOARD】コントロールパネルがキーロックされている

コントロールパネルがキーロックされており、操作できません。

※「コントロールパネルのキーロック」の項目を参照してください。

【CLOSE】ペレットタンクの蓋が開いている

ペレットタンクの蓋が開いているときに表示されます。

※「ナチュラルモードの設定」の項目を参照してください。

メンテナンスの重要性

機器は毎日・毎週・毎月・シーズン毎のメンテナンスが必要です。メンテナンスを適切な頻度で実施することで、効率の良い運転が維持され機器の損傷を防ぐことができます。メンテナンス不備による損傷・故障は保証の対象外となりますのでご注意ください。

- ・メンテナンスする際は、機器が停止し冷えた状態で必ず電源コードを抜き行なってください。
- ・機器の内部に関わる電子部品は分解しないでください。
- ・メンテナンスの頻度は機器の使用状況・ペレットの品質により変わります。

メンテナンスの頻度

機器は毎日・毎週・毎月・シーズン毎のメンテナンスが必要です。メンテナンスを適切な頻度で実施することで、効率の良い運転が維持され機器の損傷を防ぐことができます。メンテナンス不備による損傷・故障は保証の対象外となりますのでご注意ください。

- ※メンテナンスする際は、機器が停止し冷えた状態で必ず電源コードを抜き行なってください。
- ※機器の内部に関わる電子部品は分解しないでください。
- ※メンテナンスの頻度は機器の使用状況・ペレットの品質により変わります。
- ※本紙に詳しく記載されていないメンテナンス内容については、基本的に代理店により行なう内容となります。

◆日々のメンテナンス

- ・ドアガラス 毎日
- ・燃烧皿と飛散防止ガード 毎日
- ・灰受け皿 2日に1度
- ・燃烧室 1週間に1度

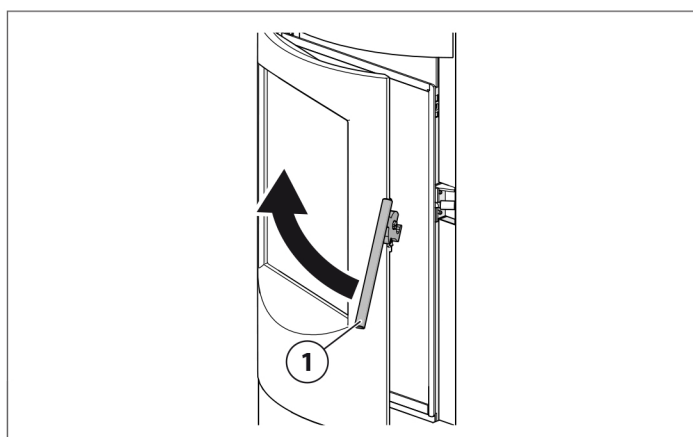
◆1年に1度のメンテナンス

- ・バックパネル 1年に1度
- ・電子部品 1年に1度
- ・リモコンの電池交換 1年に1度
- ・排煙ファン 1年に1度
- ・送風ファン 1年に1度
- ・煙突の掃除 1年に1度
- ・バックパネルと熱交換器の間の経路 1年に1度
- ・給気経路 1年に1度
- ・温風吹き出し口 1年に1度
- ・ドアや各部のシール部分の確認 1年に1度

ドアの開閉方法

ドアを開く際は、ハンドル（1）を手前に引くとドアが開きます。

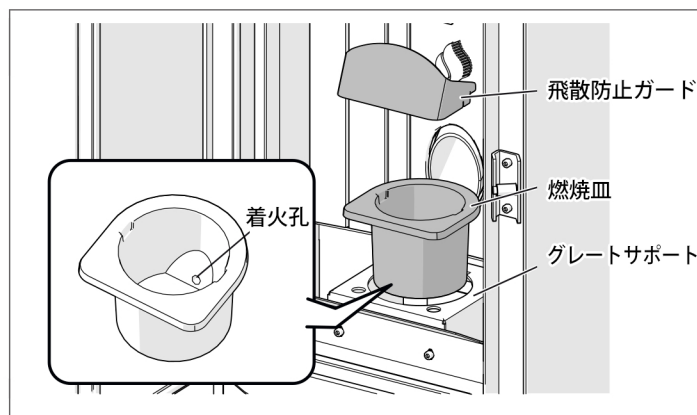
- ※機器は常に炉内の圧力を計測しながら運転しているため、運転中にドアを開けると機器は圧力異常を感知し安全を確保するためエラー停止します。
- ※ドアは必ず機器が冷えた状態で開いてください。



燃焼皿の掃除

燃焼皿は、着火前などこまめに掃除してください。

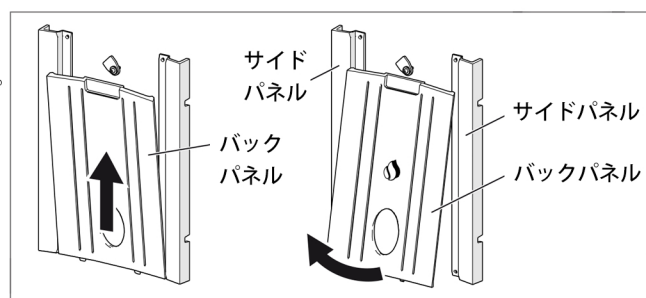
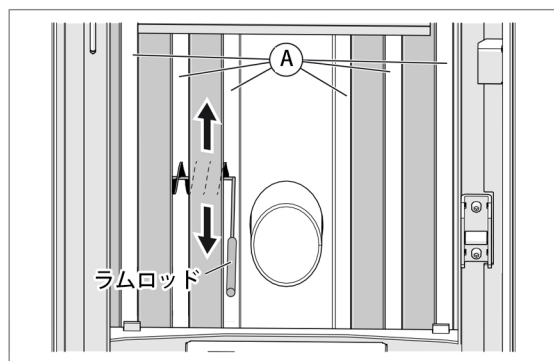
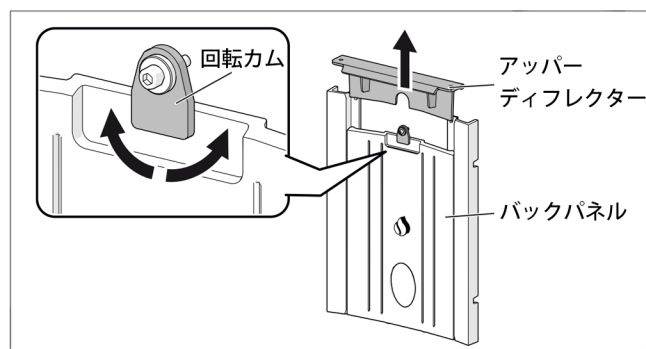
- ① 飛散防止ガードを外し、燃焼皿を持ち上げて取り外します。
- ② 燃焼皿の中の着火孔が塞がれていないか確認し、クリンカーや灰などの堆積物をキレイに取り除いてください。
※穴が塞がれていると燃焼が阻害され、不完全燃焼を起こしやすくなります。
- ③ グレートサポート周辺をキレイに掃除してください。
- ④ 各部品を逆の手順で元に戻します。
※着火する前に、各部品が正しい位置にあるか確認してください。



バックパネルの掃除

バックパネルの背面は熱交換器に繋がるため、キレイに保つことで高効率を維持します。

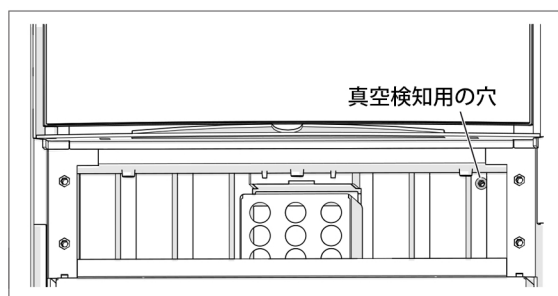
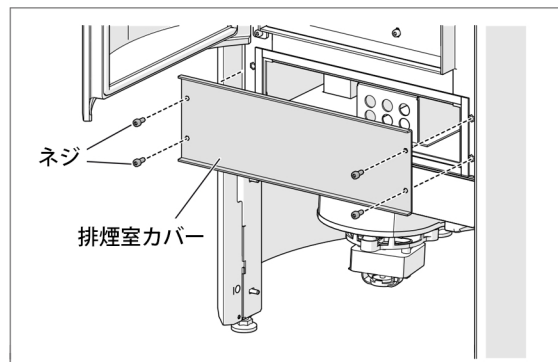
- ① 飛散防止ガードを外し、燃焼皿を持ち上げて取り外します。
- ② アッパーディフレクターを持ち上げて取り外します。
- ③ 回転カムを回し、バックパネルを少し持ち上げてから下部から手前に引き出すように倒しながら取り外します。
- ④ ラムロッドで (A) のスロットをキレイに掃除します。
- ⑤ 各部品を逆の手順で元に戻します。
※着火する前に、各部品が正しい位置にあるか確認してください。



排煙室の掃除

排煙室の中をキレイに保つことで、高い熱効率と快適な燃焼を維持することができます。

- ① 正面下部のフロントパネルを取り外します。
- ② ネジを取り外し、排煙室カバーを外します。
- ③ 内部の排煙室に体積した灰や汚れをキレイに取り除きます。
- ④ 真空検知用の穴をキレイに掃除します。
※この穴に汚れが入ると誤作動の原因となるため、周辺も含めキレイに掃除してください。
- ⑤ 各部品を逆の手順で元に戻します。
※着火する前に、各部品が正しい位置にあるか確認してください。

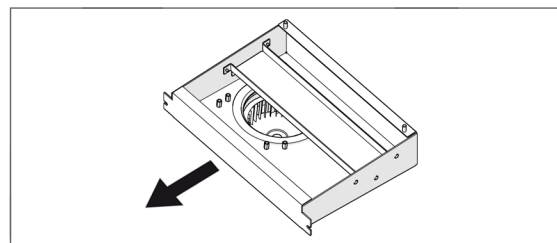
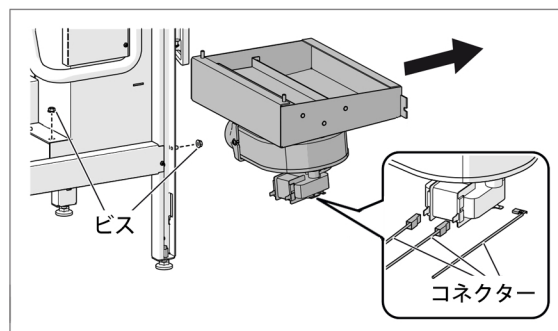
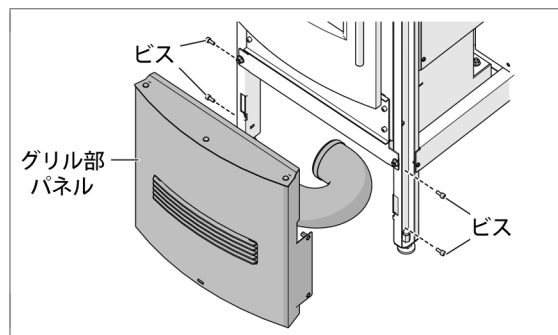


送風ファンの掃除

送風ファンやグリル部（温風吹き出し口）にほこりが堆積すると、動作中にファンの動作音が大きくなることもあるため、定期的に掃除する必要があります。

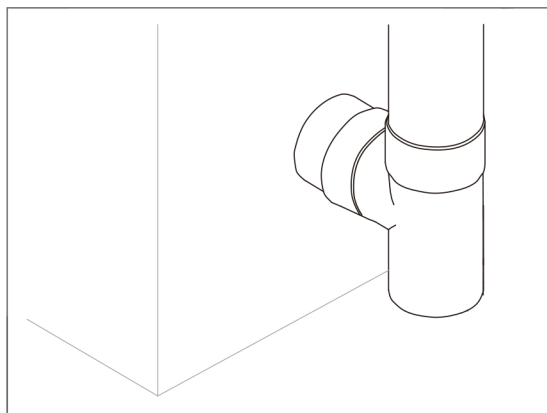
この部分は入り組んでいる構造のため掃除機やブロアー、柔らかいブラシ等を使用し汚れを除去してください。
※必ず機器が冷えている状態で、かつ電源を抜いて作業してください。

- ① 天板と側面パネルを取り外します。
- ② 本体正面のビスを外し、ドア下のグリル部パネルを取り外します。
- ② 本体底面にある送風ファンに繋がるコネクターを取り外します。
- ③ 本体側面にある送風ファンケーシングを固定しているビスを外します。
- ④ 送風ファンケーシングを取り外し、掃除機やブロアー、柔らかいブラシ等でキレイに汚れを取り除きます。
- ⑤ 各部品を逆の手順で元に戻します。
※着火する前に、各部品が正しい位置にあるか確認してください。



煙突の掃除

煙突の配管方法は、各家庭ごとの間取り等に応じて異なります。
 煙突を掃除する際は、代理店に依頼してください。
 ※ご自身で行なう場合は、代理店の指示を仰ぎ作業を行なってください。



灰受け皿の掃除

灰受け皿は、灰があふれて周囲に堆積することが無いよう、随時確認し灰を捨ててください。灰を捨てる際は、蓋のできる金属製の容器に入れ、不燃性の床の上で保管してください。
 ※灰は完全に火が鎮火し冷えてから掃除するようにしてください。

外装パネルの掃除

外装パネルは中性洗剤で洗うことができます。柔らかい布で汚れやホコリを拭き取り、セラミック（陶磁器）用の洗剤を使用してください。
 ※パネルが熱い状態で冷水を欠けたり、水に浸したりしないでください。急冷はパネルが割れる原因となります。
 ※パネルに強い衝撃を加えないよう、取扱いには十分注意してください。

エナメル金属パーツの掃除

柔らかい湿気た布で汚れを拭き取ってください。
 ※金属パーツには、アルコール・ソルベント（溶剤）・アセトン・脱脂材・研磨剤などは絶対に使用しないでください。

ドアガラスの掃除

柔らかい布で汚れを拭き取ってください。汚れが強い場合は、アンモニアをベースとしたクリーナーを使用してください。

ソルベント（溶剤）のような腐食性の薬品や研磨剤が入っているものは使用しないでください。

※ガラスの掃除は、必ず機器が冷えた状態で行なってください。

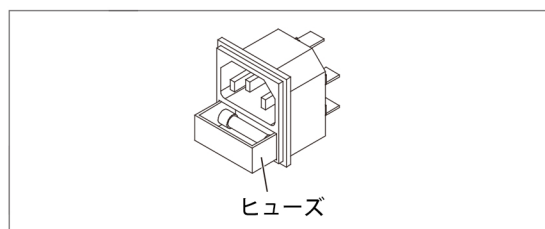
※低火力運転や水分の多いペレットを使用すると、ガラスが煤で汚れることがありますが、高火力で運転するとある程度汚れが焼き飛びます。

※タールなどの落ちにくい汚れは放置すると取れにくくなるため、その都度こまめに掃除して頂くことをおすすめします。

ヒューズの交換

機器には、電源ケーブルソケットにヒューズを備えています。
ヒューズが切れた場合は交換しましょう。

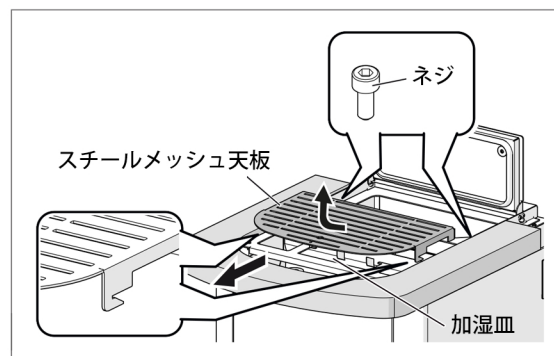
◆使用ヒューズ：5x20 F4AL 250V



加湿皿の掃除

長期間使用しないときは、加湿皿の水は廃棄しましょう。

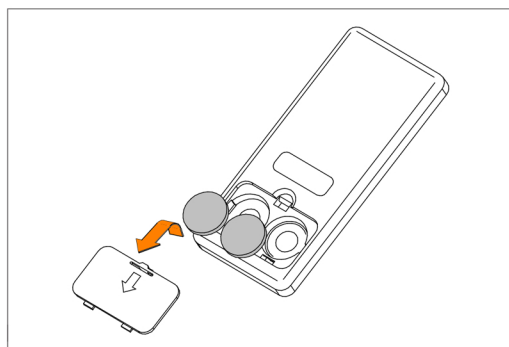
- ① ペレットタンクの蓋を開き、スチールメッシュ天板を固定しているネジを外します。
- ② スチールメッシュ天板を取り外します。
- ③ 加湿皿を取り外します。
※中の水をこぼさないよう気を付けてください。



リモコンの電池交換

リモコンの裏のカバーをスライドすると、電池を交換することができます。
電池は単4／1.5Vの電池をご使用ください。

オフシーズン等で長期間使用しない場合は、電池の液漏れによる破損を防ぐため、必ず電池を抜いた状態で保管してください。



シーズン終了時の掃除

オフシーズン等で暫く機器を運転しない場合は、下記の通り掃除を行なってください。

- ① 「FILL AUGER」を作動させ、タンク内とオーガ内のペレットを全て抜き取ります。
※一度で取り切れない場合は数回行なってください。
※この機能は機器が「OFF」状態のときのみ操作可能です。
- ② 機器の電源を抜きます。
- ③ 炉内や排煙室、煙突をキレイに掃除してください。
※灰は湿気を吸うため、残したままにしておくとカビやサビの原因となります。
- ④ 機器の背面も確認し、周囲にホコリが溜まらないよう掃除してください。
- ⑤ リモコンの電池を取り出し、次回使用時まで保管してください。
※電池を抜かずに長期保管すると、液漏れによりリモコンが破損する場合があります。

※機器本体は鋳鉄や銅板でできているため、材質の特性上、オフシーズン中にサビが発生することがありますが、異常ではなく性能に影響を与えることはありません。

※サビが気になる場合は、紙やすりや金属ブラシ等で擦り落とし、補修スプレーで塗装することで外観を美しく保つことは可能です。

シーズン前の準備

シーズンのはじめなど長期未使用状態にあったストーブを使用する際は、メンテナンスの項目を一通り確認・実施し、機器が正しく作動することを確認してください。



PIAZZETTA日本総輸入元

GREENHOOD（グリーンフード）
<http://greenhood.jp/>